Management of the second of th

vol. 24 2019年12月発行

グノーブル 卒業生インタビュー

菊田真史さん、栗原陽紀さん 平栗成悟さん、海老名洸太朗さん

保護者座談会2019

大学でもさらに楽しそうに勉強に向かっています。 グノーブルで培った"学ぶ心"は、 受験で燃え尽きるようなものではありません。

中学受験グノーブルから 国語講師座談会

受験は国語の大きな世界の一部でしかありません。 その意味では、本来的にはこの広大な世界を享受 できるよう生徒たちの理解力、思考力、精神年齢を 上げていくというのがグノーブルの国語のねらいです。

英会話グノキッズから

上級クラス「G (グリフィンズ) クラス」設立! 2020年度よりスタート。その内容は…

We especially need imagination in science. It is not all mathematics, nor all logic, but it is somewhat beauty and poetry.

科学においては想像力が大切です。科学は数学や論理力ばかりでなく 美の追求でもあり、詩的なものでもあるのです。

マリア・ミッチェル

Maria Mitchell (1818年8月1日~1889年6月28日)

アメリカ合衆国の天文学者。1847 年、ミッチェル彗星(C/1847 T1, 1847 VI)を発見。アメリカ芸術科学アカデミーの初の女性会員で、のちにアメリカの大学で天文学の教授として迎えられた。数学、天文学教育とともに、当時の女性地位向上に尽力したことでも知られている。



グローバルに活躍できるM&Aのプロフェッショナルになりたい。 そのために、さらなる英語力の向上を。

2017年に東京大学教養学部を卒業して伊藤忠商事株式会社に入社した菊田さん。伊藤忠商事は、就活生が選ぶ「就職希望企業ランキング」で常に最上位に輝く超優良企業。社会人として順風満帆のスタートを切ったわけです。ところが、わずか1年10か月という短い期間で転職を決意。新しい就職先は、M&Aアドバイザリー業務で世界トップクラスの独立系投資銀行、株式会社ラザードフレールでした。福利厚生や将来性の観点で安定感抜群の日本の総合商社から、実力主義の外資系企業への転職を決めた理由は何か。その心のうちをお聞きしました。



東大だからといって就活が 有利になるわけではない

就活では、いろいろな企業を受けていました。正直なところ、就活時は確固たる軸はなくて、今振り返ってみると、社会的ステータスなどを

オブラートに包んでそれっぽい理由をつくり就活をしていたように思います。それでもその時は必死にいろいろ受けました。総合商社や外資系のコンサル、ベンチャー企業、大きくはこの3つです。最終的には伊藤忠商事に入社しました。就活時にお

会いした社員の方がすごく魅力的だったこと、「ここなら実力がつきそう」という直感が働いたことが伊藤忠に決めた一番の理由です。

東大生だから就活を有利に進められるかといえば、決してそんなことはありません。東大を出ていると、

要領の良さみたいなものは担保されているという見方をしてもらえる場合もあるので、外資系のコンサルや投資銀行などは東大ブランドのようなものが多少メリットになるかもしれません。ただ、日系の大企業はある程度大学枠が決まっているケースも少なくなく、就活自体も東大生同士での競争になります。本質的には、どこの大学であれ会社に入ってからの競争になるので、就活だけを考えれば、大学のブランドはあまり関係ないように思いますね。

実力主義の外資系企業で プロフェッショナルになる

転職理由はいろいろありますが、 伊藤忠で外国の企業に投資をする M&A 事業を経験した際、一番下っ 端だったとはいえ、かなり主体的に 働かせてもらえて、その時、M&A アドバイザリーに興味を持ったのが きっかけです。投資後、事業会社経 営を本社側から支援するわけですが、 M&Aのディール(売買や取引)と いうのは、勉強しなければいけない 分野が多岐にわたり知的好奇心を刺 激される上に、エキサイティングで す。次第に「この案件が終わったあ とも M&A のディールに従事し続け て、M&A のプロフェッショナルに なりたい」と思うようになり、クロ スボーダー M&A に強い外資の投資 銀行に絞って転職先を探し始めまし た。ですから、伊藤忠が嫌になった ということではなく、むしろ伊藤忠 で働いてみて、初めて自分のやりた いことが見つかったという感じです。 新卒で伊藤忠に入ったことはすご

く良かったと思っています。面白い 人がたくさんいましたし、仕事自体 も楽しく、社会人としての基礎を身 につけることができました。ただ、 商社では会社の方針で、ジェネラリ ストとして育成されていきます。こ れには一長一短あります。経営者を目指すのであれば、経理や人事などを含めた様々なノウハウを身につけられるジェネラリスト的なキャリアが役に立ちうる一方、テクニカルなスキルは習得しにくく、「自分はこれだ」という専門性が身につきにくいと思います。私は、「自分のできることはこれだ」と言えるその道のスペシャリストになりたいことに気づき、入社してわずか1年10か月でしたが、思い切って外資系の投資銀行ラザードフレールに転職したんです。

外資系の投資銀行は日本の商社よりも厳しい環境ですし、実力主義で激務です。それでも私はまだ社会人2年目だったので、勢いで転職したところはありますね。伊藤忠は良い会社でしたので、30歳や35歳で家族もいたら転職していなかったかもしれません。M&Aでプロフェッショナルになりたいという強い思いが、転職の原動力になっていたのは間違いありません。

外資系投資銀行での今の役割

欧米ではコマーシャルバンクとイ ンベストメントバンクという "2つ の bank"に分かれていて、前者は いわゆる日本でイメージされる商業 銀行で、後者は、誤解を恐れずにお おざっぱに言ってしまうと、証券会 社です。それを一緒にやっていると ころをユニバーサルバンクといい、 ドイツ銀行や、UBS(スイス)など ヨーロッパではこの形式が主流です。 アメリカでも一部、JP モルガンな どが証券業務と銀行業務を一緒に やっています。ラザードフレールは インベストメントバンクの一種で、 M&A のアドバイザリーに特化した 独立系の投資銀行です。

欧米では、企業も、商品と同じように"誰かの所有物"という考え方がより強く浸透していて、その持ち

主が変わるのは自然なことと捉えられているように思います。そして、企業の持ち主が変わる時に起こるのが、mergers and acquisitions (M&A) です。それを、コーポレートファイナンスといわれる分野を軸にしながら、買い手と売り手の交渉などについて様々なアドバイスをするのが M&A アドバイザリーの業務になります。

その中には、マネージングディレクター(MD)、ディレクター、ヴァイスプレジデント(VP)、アソシエイト、アナリストという職制のピラミッド構造があって、私は今アナリストとして、企業にプレゼンする資料を作ったり、Excelでファイナンシャルモデリング(企業価値の評価)を行ったりとひたすら手を動かしています。ここからひとつステージを上げるには、まず上の人が、「彼を使いたい」と思うかどうかにかかっているので今は無我夢中です。

日系も外資系も "仕事の本質"は変わらない

私の職歴だとサンプル数が1対1 で、なおかつ、それなりにどちらも 特殊な会社ではあると思いますが、 日系企業は面倒見が良くて、より家 族的な側面が強いと思います。もち ろん企業風土によって違いはあるで しょうが、特に伊藤忠はそうした部 分が強いかもしれません。ただ、自 由度はあまりありませんね。一例を 出せば、昼食の時間も基本的に 12 時から 13 時までときっちり決まっ ています。一方、今の会社では、や ることをやっていれば時間の使い方 は自由です。その分深夜まで働くこ ともありますけど、こうしなきゃい けないという決まりは少ないように 思います。

私が今いるプロフェッショナル ファームのようなところは、熾烈な



競争を生き抜いて残っている人ばかりなので、割と生き方に "潔さ" があるのかなと感じています。つまり、「自分はこういうふうに生きていくんだ」というのがある程度定まっている人が多いので、会社が決めたレールの上を走るのではなく、道は切り拓くもの、と考えている大人が多い気がしますね。

ただ、「自分でオーナーシップをもって働く」という仕事の本質的な部分は、日系、外資系に限らず、今までの短い社会人経験の中で出会った尊敬できる先輩方はみんな同じように言っていました。仕事で自己実現をするためには、オーナーシップをもて働くことが重要ですし、好きな仕事であれば自然とそうなりやすいように思います。オーナーシップをもてば、自分の頭で考えて、エ夫し続けられるんじゃないかと思いますね。それは受験生も同じじゃないでしょうか。

グノの英語がなかったら 今の仕事はできなかった

大学時代は、学部の勉強と英語だけは頑張ろうと思っていました。特に留学は必ずしようと思っていました。でも、大学生って頑張ることを見つけるのが案外難しかったです。時間は無限にあるんですけど、その無限にある時間の中で、自分が何に対して投資するのかを見つけるのはなかなか難しかったですね。ですから私は、「留学のために、とりあえず英語を頑張っとくか」みたいな感じだったと思います。

英語に関しては、グノーブルで中山先生に教えてもらったことがずっと私の中で生きています。英文をそのまま頭から読んで返り読みしないとか、単語の成り立ちから語彙を増やしていくといったやり方は、大学の英語学習でも存分に活かすことができました。英語は本当にグノに感謝していて、グノの英語がなかった

ら、多分、英語でのメールや電話を たくさんする仕事はできていないと 思います。高校時代にすごく伸びま したし、得意科目になって、もっと 頑張ろうという気持ちになったのは グノで教わったおかげです。

そうした土台は、今の仕事でも本当に役立っています。具体例を挙げれば、毎日膨大な量の英語のメールを読むんですけど、英文を頭から読みこなしていくことができないと仕事になりません。日系企業ならそこまでではありませんが、外資系企業だと英語はまさしく公用語にならないほどたくさん使います。そのおかげで最近では資料作成時、日本語で作ればいい資料でも、英語のほうが出てきやすい頭の回路になってきて、英語と日本語をさほどストレスなく行き来できるようになってきました。

これは実感として強く思いますが、帰国子女の方でなければ、英語学習の頑張り時になる高 2・高 3、いわゆる受験期の中で、しっかりとした基礎を固めておくと将来かなり役に立つと思いますね。とはいえ、もちろん大学受験を度外視して考えるわけにはいかないので学び方は重要です。その点グノで勉強していれば大学受験時に英語がアドバンテージになりますし、グノは、将来役立つ英語を伸ばす最良の土台を築ける環境だったと思うので、今グノに通っている皆さん、英語を頑張ってください。

スウェーデン留学で知った 自由という不自由

教養学部の交換留学制度でスウェーデンの大学に留学しました。 最初はイギリスやアメリカを申し込んだのですが、その年は優秀な帰国子女の学生がこの2か国に集中して、私はその時帰国子女ほど英語ができ なかったし、そもそも志望動機としても強いものがなかったので落ちてしまったんです。ところが2次応募でヨーロッパがあったので、そこでスウェーデンに応募して再チャレンジした結果合格できました。留学の語学基準は、スウェーデンでTOEFL®90点ぐらい、イギリスやアメリカに行くには100点くらいが求められるようです。

スウェーデンで印象的だったのが、 スウェーデン人の友達と話していて、 「スウェーデン人はいいよね、自由 に何にでもなれるじゃない」と私が 言った時のことです。というのも、 スウェーデンは社会保障が充実して いるので、大学も地元の人だと教育 費はかかりません。ですから、生ま れた時の家庭環境でハンディキャッ プが生じることがない。その分、税 金が高いんですけど、高福祉で教育 もしっかりした社会制度ができてい て、就職までのキャリアは平等なん です。つまり、家にお金がないとか、 塾に行かせてもらえないとか、そう いった家庭環境で将来が制限される ことは基本的にありません。ところ が、その友達は選択肢がありすぎる と逆に迷って困るし、何者にもなれ るっていうのはすごい苦しみなんだ、 と言っていて「なるほどな」と、少 し考えさせられました。

私を含めグノに通っている生徒たちって、ある程度教育にお金が使えて、それなりに余裕がある家庭が多い傾向にあるはずです。少なくとも「勉強したい」という気持ちが制限されるようなことは少ないんじゃないでしょうか。"格差社会"と言われる今の日本を見渡して、冷静に考えてみれば、それはとても恵まれていることだと気づくはずです。ところがスウェーデンの場合は、それが誰に対しても当てはまるわけです。選択肢が制限されていない分、自分のやりたいことが見つからずに、30

歳ぐらいまで大学院に行っている人も多かったですね。これは、スウェーデンだと就職口が日本と比較して少ないという事情もあるんですが。スウェーデンというと高福祉でみんな幸福そうに暮らしているというイメージを持たれているかもしれませんが、税金の高さに文句を言っている人もたくさんいましたし、必ずしもそうでない側面もありました。

仕事も勉強も量を こなさなければ質にならない

スウェーデンではサステイナブル エコノミーなど、よりリベラリズム 的な経済学を学んできましたが、今 はかなりそれとは遠いことをやって いるなと思いますね(笑)。学生時代 に学んだことは社会に出ても、もち ろん役に立つこともありますが、そ れがそのままの人生をトレースする かと言えば、必ずしもそんなことは ありません。

勉強する意味って、社会の行動・思考様式に組み込まれて「当たり前」と考えているものを、批判的というか、相対的に見られるような視座を得ることがひとつの意味だと思うんです。東大の友人でも頭がいいなと感じる人は、いい意味での批判的思考ができる人が多かったです。そういう意味でも大学に入ってから勉強するのは大事です。

この前、今の会社の研修で1か月 半ほどニューヨークに行ったんです けど、アメリカのエリートは大学で 死に物狂いで勉強しているんです。 私はある程度していたほうだと思い ますが、改めて「日本の大学生は本 当に勉強しないな」って思いました ね。東大生でもそうです。



仕事でも勉強でも量をこなさないと質につながらないですし、尊敬できる先輩を見ると、若い頃からがむしゃらに働いている人が多いですね。昔は日系企業でも、同じように働いていたんだと思います。社会全体として働く時間をなるべく減らそうという方向にどんどん舵が切られていて、それに対して間違っているとも思いませんが、個人としては、若いうちになるべく働いてスキルを身につけて、少なくとも会社に依存しないような人材になりたいなと思っています。

量をこなして成長するために必要なメンタルの部分は、中高のサッカー部で培われた気がします。私の経験からすると、部活と受験勉強の両立はとても大事だと思っています。

私の場合はスポーツでしたが、それが学校行事でも受験勉強でも自分が必死に頑張れる何かだったらいいと思います。また、そんな学生生活

を応援してくれるのもグノの良さだったと思います。先々いい結果がでるかどうかはわかりませんが、ずっとあとになって振り返った時に、「あの時は頑張れたな」と思えるような、原体験をしておくことが大事だと思います。

仕事の英語よりネイティブの 雑談のほうが難しい

将来的にはニューヨークで働いてみたいという思いがあります。なんといっても世界の金融の中心なので。ただ、今年、研修でニューヨークに行って、ネイティブ同士の雑談に全然ついていけなくて、英語力の向上の必要性を改めて実感しました。仕事上の会話なら、共通の文脈が頭の中に入っているので理解はしやすいんです。でも、雑談の場合は断片程度ならわかりますが、完全に理解するのは困難です。文化的な背景を共

有していないことが一因にあるん じゃないかと思います。私が高校生 の時に日本で、はやっていた歌を外 国人がわからないのと一緒で、ある 程度文化的背景がある話は難しいで す。

それでも1対1なら相手も手加減して、優しくゆっくり話しかけてくれたり、伝わる英語で話してくれるのですが、ネイティブ同士が複数で話す時は、話すスピードが全然違います。

ただ、ニューヨーク研修から戻ってきて仕事が楽になりました。研修では、テクニカルなことをみっちり学びました。その時はおぼろげだったことも、戻ってきて実務をこなたっちに「そういうことだったとも、戻ってきることがはした。今やっていることの全体像みたいなのが見えやすくなりまえれば、何はともあれ英語力のさらなる向上が課題です。なので今、出ば、何はともあれ英語力のさらなる向上が課題です。社会にしいけないですね。



グノーブルの教育は私にとっての財産。 人生の選択肢を広げてくれた学びでした。

日本人として初の国連難民高等弁務官に就任され、その後も生涯にわたって紛争や貧困などの困難に直面する人々の支援に尽くされた緒方貞子さんが、今年10月22日に逝去されました。支援のフィールドは異なりますが、グノーブル3期生の栗原陽紀さんも、国際協力の第一線で活躍されています。大学で発展途上国について学び、海外でさらに学びを深め、日々、厳しい環境に置かれ、教育の行き届いていない子どもたちのために奔走する栗原さんは、国際協力の現場にどのようにして踏み込み、どんな働きをされているのか。そしてグノーブルは、彼女にとってどのような学び舎だったのか。お話をお聞きしました。



 くりはら はる き

 3期生 栗原 陽紀さん

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会事業サポート課海外事業担当

(東洋英和女学院/国際基督教大学教養学部アーツサイエンス学科アジア研究メジャー卒業/ フィリピン大学ディリマン校社会福祉コミュニティ開発学部コミュニティ開発学修士課程修了)

The Control of the Co

アジアの貧困地域の 子どもたちに教育を届ける

シャンティ国際ボランティア会では、「教育には人生を変える力がある」をモットーに、主にアジアの途上国で教育支援活動(学校建設や図

書館活動など)を行っています。

支援地域では、複数の団体がミッションやモットーを持って活動しています。それぞれの役割は自然発生的に分担されますが、国際協力の世界では"援助コーディネーション"が大きな課題になります。つまり、

同じエリアで同じような援助活動を してしまうと、現地における公平性 や活動の妥当性、効率性などに影響 するので、基本的にはどの団体も入 る前に事前調査を行って、自分たち ができることと現地のニーズが合致 するようにしています。なるべく効

果のある場所へ、さらには、事業の 持続性が期待できる場所で活動を行 うことが国際協力事業の前提となる のです。

国際協力の中にはいろいろな フェーズがあって、災害などが起き た直後は「緊急救援」という形で 様々な団体がものすごい勢いで現地 入りします。そのような時は国連な どが指揮をとって、なるべく援助が 被らないようにコーディネーション するシステムが出来上がっていきま す。そして、災害のあとに落ち着い てくると「復興期」というフェーズ に入って、通常の状態に戻していく プロセスに移行します。復興後、も しくは平時から続く貧困問題の解決 に取り組む段階を「開発期」と呼び、 私たちの団体では、これらの3つの フェーズすべてに対応しています。 支援先は国内外を問わず、貧困地域 の子どもたちのための教育支援を開 発事業の一環として行っています。

国際支援を行うために避けられないお金の問題

現在私は東京事務所で、ミャン

マー事業とタイ国内にあるミャンマー(ビルマ)難民キャンプ事業に携わっており、活動を行うための民間ファンドレイジング(資金調達)や、ODA(政府開発援助)の対応窓口を担っています。現地には事業実務をしている日本人スタッフと外国人のスタッフが大勢いますが、彼らには事業を回すことに集中してもらい、私たちのほうではドナー(資金寄付者)に提出する資料の作成や、事業の内容について詳しく知りたいという支援希望の方々への説明といった広報活動と業務調整をしています。

私はODAを担当していまして、外務省に計画書を提出して予算額を調整するのが主な仕事です。ODAは本来"計画書どおりに実行すること"を前提としますが、途上国では計画どおりにいかないことのほうが多いので、変更があったことや、事業の進捗状況の報告を行うことも大事な仕事です。

国際協力を行う上での課題は、民間のファンドレイジングの割合が年々少なくなっていることです。なぜなら、現在は国内でも貧困問題が

増えていて、日本の皆さんの目が内向きになってきているからです。以前は「途上国の貧しい人たちのために」と発信すれば、興味を持ってもらえましたが、「国内に多くの問題があるのに、それを差し置いて、海外を支援するのはいかがなものか」という声も少なからず聞こえてきます。

私たちは非政府組織として働いているため、ODAとして政府から多くの支援をいただいて活動をしているわけですが、その割合が全部の資金のバイの中で5割を超えないように、民間支援との二本柱で活動資源を確保しています。なぜならば、ODAに頼りすぎると次第に政府の下請けのような組織になってしまい、それでは非政府組織である意味がなくなってしまうからです。

また、その時の国の方針に影響されて、どの分野に、どのくらいの支援金を割り振るかが決まってきます。私たちは教育の分野に携わっていますが、そこに必ず資金が回ってくるかわかりませんので、政府の方針が変わったとしても私たちのミッションを達成するために、常に自分たちで資金を確保できる術を持っていないといけません。昨今のように国内に目が向いている中で、どうやって他の国の子どもたちに目を向けてもらうか。これは、私たちがいつも抱えている課題です。

"居場所づくり"という 支援のあり方

支援活動には、国内外どちらが先ということはありません。今はどの国でも格差が広がっていて、先進国、途上国の境がなくなってきています。日本でもそうですが、お金持ちはよりお金持ちになり、貧困層は貧しいままでいるという問題が起きているので、どの国でも問題の均一化が進

んでいるのです。それに対して柔軟 に対応していくべきだと考えていま す

ただ私たちも、すべての人を支援できるわけではないので、自分たちの強みを活かして、ニーズのある人たちのところに、私たちができるベストな方法でアプローチをしていくべきだと思っています。もちろん国内の課題にもこれまでの知見を活かしてしっかり取り組んでいきたいと思います。

事実シャンティでは、阪神・淡路 大震災の時から国内の緊急救援活動 を行っています。教育とは別に物資 配布などは昔から行っていて東北の 震災時も出動しました。そうした活 動の中で新しいニーズが見えてきて、 岩手、宮城、福島では「移動図書館 活動」を行うことで、地域の人たち とコミュニケーションをとり合いな がら、皆さんの"居場所づくり"を 行いました。

この活動は、子どもはもちろん大人の方にもとても喜んでいただけました。現在は支援地域の復旧の目途がついたので、活動をいったん終わりにしましたが、移動図書館活動を利用された方からお手紙をいただくこともあります。移動図書館にはお茶を飲めるスペースも設けていたのですが、そこでいろいろな人とつながることができて、つらい時期を乗り越えることができたという声を多く頂戴しました。

シャンティが目指しているのは、情報の提供や識字率の向上もありますが、"人が集う場所づくり"が活動の軸のひとつになっています。特にタイとミャンマーの国境付近の難民キャンプには、行く場所がなくてキャンプの外に出られない、でもミャンマーには戻りたくないという人たちが10万人近く、30年以上住んでいます。キャンプの中に移動図書館をつくって20年近くになりま



すが、住んでいる人たちから「外に は出られないけれどここで本を読む ことで、外の世界とつながることが できる」という言葉を頂いています。

ミャンマー難民の現状と日本政府の思惑

ミャンマー(ビルマ)難民キャン プの現状は深刻です。すでに第三国 定住*した家族がいる方々は、キャ ンプの外に出て第三国に定住するこ とが可能です。ただ、現在は応募が 締め切られていて、基本的にはキャ ンプに残るかミャンマーに戻るか、 選択肢はふたつしかありません。そ うした中で、大人世代は民族同士の 紛争を経験しているので"平和合 意"がなされたとはいえミャンマー には戻りたくないし、若い世代は キャンプ内で生まれ育っているので ミャンマーを自分の国だと思えませ ん。18歳になってキャンプ内での 学校を卒業しても「この先どうした らいいかわからない」という若者が どんどん増えている状況です。

ところが今は、世界中で難民が増 えていて、国内で平和合意がなされ たタイ・ミャンマー国境の難民は "忘れられた難民"と言われていま す。つまり、「国が平和になったのだ から自分たちの国に帰ればいいだろ う」というのが国際的な視点です。 実際には、それほど単純な話ではな いのですが、紛争地帯のシリア難民 などに、まず目を向けるべきという 風潮もあり、難民の中での優先順位 がつけられていて、タイとミャン マーの国境付近の難民キャンプは優 先順位が低くなっているのです。

国内にも問題はあります。他国と比較すれば日本のODAの割合はかなり少ないほうで、その中でも教育分野にさかれている割合は決しては、インフラなど日本の国際協力を形としては、センフラなど日本の国際協力を形とて残せる分野にODAを集めがちです。ただ本質的なところでは、教育こそがすべての根幹にあるといううで、大きもあるのです。私たちも他のNGOとネットワークを組んで、政府に対して教育分野の援助の裾野を広げていただきたいとお願いをを広げていただきたいとお願いをでなかなか難しいものがあります。

*第三国定住:すでに難民キャンプで生活するなどして難民となっている者を、別の国が受け入れる制度のこと。

グノーブル 卒業牛インタビュー

Gno-let

国際協力(ボランティア)を 仕事にする

日本では、国際協力や社会貢献が 仕事になることがあまり知られてい ないと思います。理由のひとつは、 どこの団体も限られた資金で運営を しているため、「社会貢献を仕事に できる」ということの広報まで手が 回らないことが挙げられるでしょう。

そしてもうひとつは、もともと日本は寄付文化が定着していないので、ボランティアを仕事にしてお金をもらうという意識が欧米諸国と比べてかなり低いことです。欧米にはクリスチャンのカルチャーが根づいているので、寄付をしたり、それを元手に活動するのが当たり前のことになっています。またそれを仕事として活動していても周りの人は全く違和感を持ちません。

社会で解決すべき課題があって、その解決に尽力する人たちがいる。そしてそれが職業として成立するのは普通のことなのです。ところが日本には、そのような活動は「時間がある人が無償でするもの」という意識の方が少なからずいます。この問題については、私たち自身も多少のリソースをさいてでも、少しずつ皆さんに理解してもらうような広報活動が必要だと思います。そうでなければ、私たちの活動自体も持続性がなくなってしまいます。

もし皆さんが国際協力を仕事にしようと思うなら、英語力は必須です。 もちろん国際協力の専門知識があったほうがベストですが、ただやはり、まずは言葉です。私たちの仕事は、現地のスタッフや政府の人との調整が多いのですが、日本側でのやりとりは、日本語と英語が半々くらいになります。また、自分で資料を作ったり、必要文献を読む時にも日本語しかできないと、探せる文献なども圧倒的に限られてしまうので、この 業界で働こうと思うのであれば英語 力は基本的な条件になります。

あとは、何かひとつ専門性を極めることがとても大事です。医療やエンジニアリング、社会学を勉強するのもいいかもしれません。ひとつでも極めたスキルや専門知識があると、それを活かし人を助けることができます。私はもともと教育に興味があったので、そこを幅広く学び、現在は教育援助のセクターにいますが、医療、環境、ITなど、どの分野であっても貢献できることは絶対にあります。

大学でそして国際社会で 活きたグノーブルの英語

私がこうした活動に興味を持ったきっかけは、地理の授業でアフリカの子どもがカカオを取っている映像を見た時のことです。その映像を見ていて、私はこんなに恵まれた環境で学校に通わせてもらっているのに、世の中には勉強できない人たちがいるということに衝撃を受けたんです。ならば、自分が学んだことを、こうした人たちのために使えないかと思い、国際協力について勉強できる大学を探しました。その中で国際基督教大学(以下、ICU)のパンフレットに「途上国開発研究」という文字を見つけたんです。

ICUには私と同じように国際協力に興味を持っている人たちがたくさんいました。留学生や帰国子女の割合もかなり多いです。ICUでは1年生から2年生の半ばにかけて、英語での集中プログラムがあります。英語を使ってアカデミックなライティング、スピーキング、リーディングを集中トレーニングするわけですが、そこで必要とされるのは、客観的に物事を判断するクリティカルシンキングの力です。英語を勉強しながら同時にその力も鍛え

ていきます。

ことがとても役に立ちました。ICUのリーディングの授業でパラグラフごとに大事なところに線を引いて読むよう教わりましたが、私はそれをグノーブルですでに習っていましたし、クリティカルシンキングの客観的な視点を持つというのも、グノーブルで学んだメタ認知にすごく似ていると思いました。また、英語の文章自体から学びがあるあたりも、ICUの英語はグノーブルの英語にとても近いと感じていました。

ですから、意識していたわけでは なく、グノーブルの学びとICUでの 学びがかなりリンクしていたので自 然につながったという感じです。だ からこそ、グノーブルで学んだこと を基礎にして ICU での学びがさら に深まりました。英語は積み重ねで すのでグノーブルで学んだことを応 用しようとしたわけではなくて、自 然な流れだったと思います。逆にグ ノーブルで英語を学んでいなかった らまた違っていたでしょうね。もち ろん学びはあったと思いますが、今、 振り返って考えてみると、グノーブ ルの英語は受験を一歩超えていて、 国際社会に対応できる英語の十台を 築いてくれたと思います。

開発学の知見を深めに、 イギリスへ、フィリピンへ

ICUで国際協力を学ぶうちに、世界の人と同じレベルで開発学を勉強したいという気持ちが強くなりました。特にイギリスは植民地で開発事業を始めたという歴史的背景があり、開発学の先駆けでもあります。そこで、ICUで専攻していたアジア研究課程のあるリーズ大学に留学しました。

リーズ大学での勉強は本当に大変 でした。特にリーディングの量が半 端ではありません。読んでも、読んでも終わらないので図書館にこもる日々が続きました。そんな時は、よく中山先生の声がよみがえってきたものです(笑)。

グノーブルの授業では、誰もが引っかかるセンテンスが毎週ひとつかふたつ用意されていて、指名された人が答えられないと中山先生が英文を前から一緒に読んでくれました。私はそれを真剣に聞いていたので、当時はひとりで音読し始めると先生の声がよみがえってくるようになっていました。その声が、リーズ大学に留学していた時にも聞こえてきたのです。リーディングの課題に追われて、焦ってしまって、「落ち着け私!」と思っていると、突然、中山先生の声が聞こえてきて導いてくれたんです(笑)。

イギリス留学から戻り、ICUでの 学びも終えて一応は就職活動もしま した。でも、やっぱり大学院に行っ てもっと学びを深めなければと思い ました。国際協力では、修士号以上 が求められるからです。ICUでお世 話になった先生にも、もし国際協力 の分野で活躍したいと決めているな ら、大学院に行ったほうがそのあと のキャリア形成に有利だよと言われ ました。一般の企業に入って日本の 中で生きていくなら、大企業に入る ことも価値のひとつではあるけれど、 国際協力で生きていくなら、企業の 名前ではなく、あなたが何をしてき たかが見られるから、やりたいこと と直結している道を選んだほうが良 いとのアドバイスをいただいて、大 学院に進学しようと心が決まったん です。そこで、コミュニティ開発学 部があり、現場とアカデミックが セットのカリキュラム形成になって いるフィリピン大学を選び再度留学、 そして今の仕事に至りました。

自分がいかに恵まれているか を客観視する

私たちの団体は「教育はすべての 人が与えられる機会」という信念を 持って活動をしています。もちろん 途上国の人とコンテクストは違うの ですが、グノーブルで与えていただ いた教育も、私にとっての財産であ り、中高からその先の人生の選択肢 を広げてくれた学びだったと思いま す。

私自身の経験から言うと、自分の中では漠然とやりたいことが決まっていましたが、成長途中だった学力面もメンタル面も、グノーブルは学校の先生と同じように、ある時にはそれ以上に支えてくださったと記憶しています。ですから「皆さんも自信を持ってください!」と声を大にして言いたいです。グノーブルの勉強に一生懸命に取り組むことは、将来、本当に素晴らしい糧になりますし、多くの機会にもつながるはずで

す。大学に進学しても、ここで学ん だことを活かして前に進んでいって ほしいと思います。

もう少し広い視点で、今グノーブ ルで勉強している中高生の皆さんに アドバイスをするなら、社会が抱え る様々な課題に興味を持ち続けるこ とはもちろん大事ですが、せっかく グノーブルに通って、物事を客観視 する大切さを教えてもらっているわ けですから、その視点で、今自分が 置かれている環境をじっくり観察し て、いかに恵まれているのかを実感 してほしいと思います。そして今の 環境に感謝しつつ、周りの人とあま り比較せずに、自分の好きなことを、 とことんやるのが良いと思います。 それは何であってもかまいません。 思いっきり勉強したり、部活に打ち 込んだり、何でもいいので好きなこ とをとことん追求してください。そ の経験は、将来必ず役立つ時が来る はずです。



司法試験の早期合格には、グノの数学的思考が土台にあった。

9月10日、法務省が今年度の司法試験の結果を発表しました。受験者総数は4466人。最終合格者数は1502人。合格率は約34%という狭き門でした。最年少の合格者は平栗成悟さん20歳。グノーブルの11期生です。苦手意識のあった数学を、中3からグノーブルで受講。受験学年では盤石な力をつけ、東大か、慶應大法学部(指定校推薦)かで悩んだ末、少しでも早い司法試験合格ルートを探り後者を選択。その目標を見事達成されました。そんな平栗さんは、グノーブルの数学から多くを学んだとおっしゃいます。



母親の姿を見て大学在学中に 合格を目指す

中学3年生の時に母親が司法試験 を受けて合格したんです。もともと 興味があって夢として持っていたそ うです。ただ、大変な道なのでその 夢には蓋をしていたそうですが、僕と妹の子育でが一段落してきたタイミングで一念発起して、ロースクールに入って勉強しようと思ったと聞きました。周りの母親を見ても、仕事を持っている人はいますが、さすがに学生をやっている人はいません。

しかも目指しているのが司法試験です。最初の頃は「何をやっているんだろう」と思いましたね(笑)。でも、そうした姿を見ていて、僕も法曹の道を志そうと思ったんです。ところがその後、母が就職活動をしているのを見て、「司法試験は早く受かる

ほうが絶対有利だ」と思い、「どうせならロースクールにはいかず大学在学中に合格して、いろいろな分野の法律を見て自分のやりたいことを探そう」と決意したんです。

実質的に司法試験に向けた勉強を 始めたのは高校3年生の3月ぐらい からです。予備校で大学1年生向け の講座を受けたのが最初でした。大 学1・2年生の時は週3回~4回く らい予備校に通って、1回の授業が 3時間。家でやるのは復習と問題。 習ぐらいでした。1日10時間やっ ていた時期もありましたが、大学の 勉強との兼ね合いが大変で2か月ぐ らいしか持ちませんでした。それ以 降は1日に5、6時間の勉強をずっ と続けることを意識して、休むを つくらないようにしていました。

予備試験ルートなら キャリア形成が有利になる

実際の司法試験そのものはそこま でハードルが高くなくて、実は、司 法試験を受けるための "資格を得る こと"のほうが大変なんです。司法 試験の資格を得るためには、予備試 験を受けて合格するか、ロースクー ルを卒業するかのふたつのルートが あります。予備試験は合格率が3% ~4%しかなくて、そこを乗り越え られれば司法試験はほとんど受かり ます。予備試験のスケジュールとし ては、5月にマークシートの短答式 試験があって、7月に論文式試験、 10月に口述試験という面接のよう な試験があります。最難関は論文試 験です。最初のマークシートの試験 で2割しか受からないのに、論文は さらにその中の2割の人しか受から ない難しさで、僕は運良くそれに受 かりました。ここまで受かってしま えば口述試験は9割の人が受かりま す。予備試験合格者で20歳~24 歳であれば、司法試験合格率は



98%ぐらいありますので、やはり 最難関は予備試験だと思います。一 方、ロースクールについては実体験 がないので詳しいことは言えません が、卒業するまでに単位を取りづら い試験制度をつくっているみたいで す。特に大学で法律を履修されてこ なかった人が3年で卒業するのはか なり大変だと聞いています。

予備試験ルートの良いところは就 職が有利になるところでしょう。大 手の法律事務所では、予備試験合格 者向けの説明会やインターンを設け ていて、そこに参加できるのは大き な経験になります。裁判官、検察官 を目指す人であっても、印象がいい みたいです。また、本番の司法試験 を目指すにあたっても、予備試験は 司法試験のミニチュア版になってい るため、それを早い段階から演習し てこなせるようになると、どのよう な部分が大切なのかを把握でき、答 案を書くことに慣れることができま す。それが司法試験の圧倒的な合格 率につながっていると思います。た だロースクールにもメリットがあっ て、実務家教員として現役の弁護士 や検察官や裁判官が教えにきてくれ るんです。最先端の話を聞くことが できるので、そのような機会を得ら れなかったことは残念でした。

友人との切磋琢磨が あったから乗り越えられた

大学生活との両立はかなり大変で した。大学1年生の時はどちらも疎 かにしたくなかったので、大学の授 業は風邪をひいた時以外は全部出席 しました。そこでしか得られない気 づきがありますし、語学の力は司法 試験の勉強では身につきません。大 学でそのような勉強ができたのは良 かったと思っています。定期試験の 時は少しだけ司法試験の勉強をお休 みして、大学の勉強に集中しました。 法律科目については予備校で学んで いることと重複していることが多い ので、そこまで必死に対策する必要 はありませんでしたが、語学と一般 教養に関しては頑張りました。睡眠時 間を少し削ったこともあります。

とはいえ、プライベートの時間が 全くなかったわけではありません。 趣味のイベントに参加したり、ライ ブに参加して騒いだりして、ストレ スを発散していました。大学のサー クル活動にも興味があったのですが、 予備校の時間と重なったり、合宿な どでその期間中は勉強できないこと を考えてしまうと、次第に足が遠の きました。

自分では、制約の多い過酷な環境 に対する耐性はあまりないほうだと



思っているんです。それでも頑張れたのは、一緒に勉強していた友達がいたことです。大学の同級生で予備校も一緒です。とても優秀で意欲もあります。彼らが毎日勉強する姿を見ると、「負けていられない!」という気持ちになりました。勉強を少し疎かにしていた時も、彼らと話しているうちに「もっと頑張らないといけない」と思うことがありました。もし自分一人だったら、ズルズルと身にならない勉強をしていたかもしれませんね。

僕が通った予備校には慶應生がと ても多くて、特に内部進学生は中高 で受験を経験しなかった分、意欲的 に取り組んでいました。彼らはこれ まで受験勉強をしてこなかったわけ ですが、もともと頭が良いので、司 法試験の勉強もすごい勢いで取り組 んでいました。そのような人たちと 常にコミュニケーションをとれる環 境があることが慶應生のとても良い ところだと思います。一方、東大生 は自分一人で勉強する傾向があって、 個々に散らばっている印象がありま した。僕の場合は慶應のコミュニ ティで仲間ができたことが良かった と思います。

塾選びも進路も 自分のことは自分で決めた

東大文Iを受験しなかったことに「全く後悔がない」といえば嘘になります。グノーブルの長澤先生のもとで数学を学んでかなり自信がついてきていたので、試験を受けて実力を試さなかったことには少し後悔があります。でも東大に入っていたら入学と同時にはじけてしまい、きっと司法試験の勉強を真剣にしなかったんじゃないかとも思っています。今から思えば、入るべくして慶應大法学部に入ったのです。

塾や進路の選択について両親は何も言いませんでした。夏休みに指定校推薦を受けるかもしれないと話をした時に「東大を受験しなくていいの?」と聞かれたぐらいです。絶対に東大に行きなさいなどと言われたことはありません。「自分で決めたことならそれでいい」、両親は常にそういうスタンスでした。

両親から勉強や進路に深く介入されなかったのは良かったと思っています。自分で決めたからこそ、小さな後悔があったりしても「精一杯やりきった」という気持ちになれました。もし、あれこれ言われていたら、

大学に入ったあとも「やっぱり東大を受験してみたかった」という思いが強くなって、それを人のせいにしながら、ないものねだりを続けていたかもしれません。決して放任ではありませんが、大事な局面での選択は塾選びの段階から委ねられていましたし、自分の頭でしっかり考えて、自分の意志で決める経験を、早くからさせてくれた両親に感謝しています。

成長させるために 厳しく接してくれた

学校の勉強の中で、数学が非常に 苦手でこれはちょっとまずいと思い 塾を探しました。希望していたのは わからない人にでも寄り添ってくれ るような塾です。その中で、グノー ブルはむやみに早く授業を進めるの ではなく、学校より少し早いぐらい と聞きました。それと、夏期講習に 通ってみて、中学受験の時に通って いた塾に雰囲気が似ていたことも入 塾の決め手になりました。

中学3年生で入室して、最初に教えていただいたのは物理も教えている岡崎先生です。とても優しくて、真面目に努力したら、ちゃんと努力したところを見てくれて、足りていない部分を教えてくれる。自分がイメージしていた塾より、ずっと生徒に近い塾だと思いました。グノーブルの入り口が岡崎先生だったことで無理なく通うことができました。その後、田部井先生にも1年ぐらい習いました。とても気さくで無理やり感のない先生でした。そこで、トレーニングを積むことができ、良かったと思っています。

高校2年生で長澤先生のクラスになってからは、同じ教科とは思えないほど周りとは違うことをしていた印象が強くあります。厳しくて何度も逃げ出したくなりました。予習は毎週10問もあって、一つひとつの

問題がかなりハードでした。頑張って 10 問解いて提出しても「先週勉強した範囲をまるで理解していない」と言われて、つらい気分になったことはよくありました。

長澤先生の言い方に、人によって は腰が引けてしまう人もいると思い ます。それでも先生が生徒に厳しく 接するのには理由があるんです。厳 しい言葉で指摘するのは、無用な "自尊心"のようなものを生徒に捨 てさせて、足りない部分を謙虚に埋 めるために言っているので、そこを 理解しなくてはいけません。そのよ うなやり方で、数学と謙虚に対峙さ せてくれるだけでなく、人間的な成 長まで導いてくれる大人はそんなに いません。生徒が本質的な力をつけ るという授業スタイルをつくってい るのは、他の塾ではあまり聞いたこ とがありません。そういうスタイル を許容しているグノーブルはさすが だと思います。

司法試験突破の土台を築けた

グノーブルで学んだ数学は受験の ための数学でしたが、僕が司法試験 の時に気をつけていた点のほとんど はグノーブルで学んだと思っていま す。グノーブルで学んだ数学の土台 は、司法試験の勉強を進めていく上 での土台にもなったと実感していま した。

例えば、演繹法と帰納法という推論方法がありますよね。具体と抽象の架け橋という面で、グノーブルの授業は最初に演繹的な方法で大きなテーマに沿っていきます。つまり、抽象的なところから次第に具体的な面へ絞っていくスタイルです。そのスタイルの良いところは「元の考え方がこうだから、このような流れになる」というのがわかりやすい点です。そこがつかめると一番のおおもとのポイントを押さえておけば良い

と理解が早まります。最初から具体 的に問題を並べ一対一対応で眺める よりも、そのおおもとにある原理原 則をしっかり把握しておけば最小限 の暗記で最大限の効果が得られる。 それは司法試験も同じなんです。

論点自体は様々あるわけですが 「そこがどうして問題になるのか」 というおおもとに遡って見るよう意 識してみると「根底にこのような考 え方があるから、こうした論点がで てくる」という理解につながってく る。そのように、一つひとつの問題 を個別に考えるのではなく、大きな 観点で考えるくせをつけられたこと が、司法試験にいち早く合格したことにつながっていると思います。

専門分野を見極めて 世界で活躍できる弁護士に

残りの学生生活では、少し休んで 充電したいと思っています。旅行に も行ってみたいです。ヨーロッパを 回ったりするのもいいかなと思って いますし、自由な時間のあるうちに できることをしたいです。あとは、 弁護士として働く中で英語が必要と なってくるので、仕事で使う英語を 習得したいと思っています。

今、法律事務所でアルバイトをしているのですが、そこで法律の観点から、いろいろな世の中のトラブルを見る経験をさせていただいています。そのアルバイトを続けて自分の法律知識がさびつかないようにしながら、就職までにより実践に近い法律の使い方を学んでいこうと思っています。

実は卒業後の就職先も決まってい て、企業法務に強い事務所に就職し ます。企業法務にもいろいろとあり ますが、最初の数年間は多様なジャ ンルを経験してみようと思っていま す。周りから見れば、成長が少し遅 いように感じるかもしれませんが、 いろんな分野をじっくり見て、自分 に何が向いているのかを、自分の身 をもって知りたいんです。その中で 専門にしたい分野ができたら、今度 はそれに向き合っていこうと思いま す。また自分が希望すれば、アメリ カのロースクールに留学したり、 ローファームで働いたり、様々な経 験を積ませていただけるので、ワー ルドワイドに活躍できる、大きな弁 護士になっていければいいなと思っ ています。



グノーブル 卒業牛インタビュー

Gno-let

データサイエンスと臨床を結びつけて、新しい時代のチーム医療を確立したい。

2019 年5月から6か月間、マサチューセッツ工科大学(以下、MIT)に研究留学することが決まったグノーブル 10 期 生の海老名洸太朗さん。在学する東京医科歯科大学医学部で2人目の快挙です。留学の目的は、医学に意思決定の新基準を導入して"新しい時代のチーム医療"を確立しようというもの。そのために、データサイエンスの最先端で、患者の検査データと医療現場のパイプ役となる"データサイエンティスト"の働きを学んでこられるそうです。それに先立ち、意気込みや期待感をお聞きしました。



医学を学んで 幅広い医療の可能性が見えた

3年前の『東大合格特集号』 (Gno-let vol.17) のインタビュー 当時から、「臨床医という選択肢だ けではなく、医学という学問を通して、違った形で社会に貢献できる可能性も模索してみたい」と思っていましたが、基本的な思いは今も同じです。もちろん臨床医の道も捨ててはいません。ですが、もう少しマク

口に考えて「医療を"何か"と結び つける」、そういう動きをしたいと いうモチベーションをずっと保って いたことが今回の MIT への研究留 学につながりました。

「MITに行く」と友達に話すと、9

割くらいの人に「MITって医学部あるの?」という質問をされますが、 僕が MIT に行く目的は、医療とテク ノロジーとを結びつける "データサ イエンティスト" の働きを学ぶため です。

大学で "医学" を学んでみると、 医者の本業である人を治すということだけではなく、産業との結びつきやデジタル技術の有用性など、もっと幅広い医療の可能性が現実的に見えてきました。それが3年前と今との違いだと思います。大学に入った頃は、違った形の社会貢献といっても、新薬の開発くらいしか思いつきませんでしたが、今は、医学の知識はもっと多様な業界とつなげられるという見方に変わりました。

研究成果をどうマネタイズ するかを見てきたい

データサイエンスという言葉は最近とてもはやっていて、いろいろな人が使っています。医療といかにも結びつけられそうだからです。例えば、MRIとかCTのデータが一瞬で解析できるって夢があるじゃないですか。そういうことはキャッチーなので、日本でも人に説明する時によく使われます。でもデータサイエンスには実はもっといろいろな可能性があって、その最先端を間近で探るためにはやはり留学が必要です。

また、アメリカの大学はどこでも そうだと思いますが、特に MIT は、 自分の研究成果や発見をどうマネタ イズするか、つまりどう事業化しお 金に換えて社会に出していくかをす ごく考えているので、そういう空気 を感じたいんです。日本ではどうし てもアカデミアで完成されたものが、 商業ベースに乗るまでにものすごい 時間とプロセスが必要になったり、 利権が絡んでくると思います。そう いうところをアメリカはどう取り組 んでいるのか、留学して学んでこようと思っています。何より素晴らしいのが、学部生の間はカリキュラムの中で単位をもらいながら留学に行けるところですね(笑)。

医療データと現場をつなぐ ディレクターを目指す

データサイエンティストは医療業 界に特化した職業ではありません。 ですから、データを扱うことや読む ことは得意だけれど、そのデータが 医療上どういう意味を持つかを理解 していない人がほとんどです。だか らこそ、現場の医者や疫学者、公衆 衛生学者が介入して、どういうデー タで分析するのが適切なのかを検討 することが必要になります。健康状 態というのは、フィジカルのファク ターだけではなくて、収入や学歴、 住んでいる場所など様々な要素から 判断しないと正確な分析はできない からです。けれど現状は、それらの 人々の間をとりもって、いろんな立 場の人をうまくつないでくれるディ レクターのような立場の人が日本に はまだいません。僕はその第一号に なりたいと思っているんです。

もちろん今でも、それぞれの立場の人が連携しようと努力しているのですが、あまりうまくいっていないように思います。大学病院ならいろいろな分野の教授がいらっしゃるので、連携だけならうまくいく場合もあるでしょう。でも、ひとつの病院だけの医療統計では汎用性がないので、もっと国や地域全体でのガイドがあればいいと思います。それを実現するためには、データサイエンスが活きるのではないかと思っています。

医療データの専門家として現場に 立つのか、臨床医として現場に立つ のかはまだ決めていません。実際に 人を診てみたら、すごく面白く感じ るかもしれないですしね。ただ、ど こにウエイトを置いて動くかはさて おき、自分よりもデータをうまく扱 える人がいるのは当たり前、自分よ り診療がうまい人がいるのも当たり 前だと思っています。ですが、双方 の意見を聞いて理解でき、双方が 言っていることを組み合わせて、課 題解決できる人に仕事を依頼するよ うな立ち位置で仕事をしている人は まだ日本にいないと思うので、そこ を模索していきたいと思っています。





募集枠はわずか1名。 MITへの留学チャンス

留学のチャンスを知ったのは2年生の時です。東京医科歯科大は留学にとても力を入れていて、秋頃に「今年は MIT から枠がくるらしいよ」という話がまわってきたんです。その年は、ひとつ上の先輩が行かれて、今年は5月から10月までの6か月間、僕が行くことに決まりました。

MITへの留学制度は、僕が1年生の時にネバダ大学から日本人の教授が赴任してきて、その先生が引っ張ってきたコネクションです。なので、本当にラッキーでした。東京医科歯科大はインペリアルカレッジロンドンをはじめとして海外の協定校の枠が多くあることは昔から有名でした。インペリアルは世界屈指の理工系大学で少し枠が大きいので、データサイエンスと結びつけることをやろうと思えばできるはずです。ただ、あまりポピュラーな分野ではないと思っていました。そのような時に、データサイエンスと臨床医学

を結びつけようという取り組みをす でに行っている MIT の研究室から 1名だけ募集がかかったんです。

留学にあたっては、まず書類審査をクリアすることが必要で、これまで東京医科歯科大でどういうアクティビティをしてきたかが問われました。そのほか、語学力ではTOEFLiBT®の点数が問われますし、志望動機やなぜ MIT じゃないといけないのか、さらには、この留学があなたの人生にどんな影響があるかといったエッセイをひたすら書いて、その後に面接がありました。

準備はいろいろと大変でした。僕がこのプログラムの話を知ったのが2年生の秋でしたので、3年生の頭から医療統計情報を扱う研究室、簡単に言いますと公衆衛生ですが、そこの先生にアポをとって話を聴きに行き、自分も関わらせてもらいました。研究室で厚生労働省が公表している資料などを分析して取りまとめていく仕事を手伝わせてもらいながら、基礎的な知識を身につけていきました。それと、日本での医療データの扱われ方がどういうものかも勉

強させてもらいました。MIT に応募 した中で、おそらく僕が一番動き出 しが早かったと思いますし、やれる ことはすべてやったという手ごたえ もありました。

勉強の進め方は "塾のカラー"が出る

留学を志すには、当然ながら英語力が必須になるわけですが、グノで学んだ英語はその土台になりました。とりわけ、英語の勉強の仕方がちゃんと自分の中に定まっていたことが良かったと思っています。例えばTOEFL®の点を取るということで言うなら、試験の形式に沿って勉強していけばある程度の点数は取れるようになりました。ただ実際には、テストで点を取ることはあまり重要ではなく、肝心なのは英語を使えるようになること、言語力(言葉を使う力)を上げることだと思います。

その点においても、グノの英語の 授業でやった要約のトレーニングは 役に立ちました。500字とか1,000 字といった限られた文字数の中で自 分が言いたいことをすべて詰め込み、 理路整然とした文章を書くことは大 学でもたびたび求められます。とこ ろが多くの人は、そうした訓練を意 外としてきていないため苦手です。 グノでそういった訓練がしっかりで きていたことは、今もとても役立っ ていますし、もちろんこれからの留 学でも役立つはずです。

医科歯科大は1年生からグローバルヘルスリーダーを育成するプログラムがありますが、そこでは英語での議論が授業にたくさん組み込まれています。その時に感じたことは、単に英語を話せる、聞ける人はたくさんいますが、英語で議論するためには文化への親和性が必要になってくるということです。というのも、外国の方と話していると日本人とは

話の組み立て方が全く違うんです。 同じ英語でも日本人が英語で話すの と、イギリス人とでは話の構築の仕 方に差がありますし、アジア人同士 でもまた違いがあります。そこが文 化の違いであり、外国の方と英語で 話す上ですごく難しい部分です。し かし、グノで様々な生きた英文に触 れながら、論理構成をいつも意識す る学習をしていたことで、他の人よ りは困難なく適応できているのでは ないかと感じています。

あと、大学に入って感じたことですが、勉強の進め方というのは "塾の色"が出ますね。それは当然のことで、みんな一度成功した勉強の仕方を大学に入ってからも続けているんです。その点、僕はグノで英語を受講していたことで、英語を学ぶというより "使える" 状態にする、"身につけていく" ための流れがエッセンスとして組み込まれていると感じることがあります。これはとても有利なことだと思っています。

最先端のプロセスを 日本に置き換える

留学する目的は、将来的に"医療における新しい意思決定基準"を導入することです。そのためにも、医療をより良くするための一連のプロセスを学びたいと思っています。

MITでは、病院で患者の検査データが取られ、データサイエンティストが分析をしたものに、医療者や統計学者などいろいろな人が意味づけ、問題提起をしていきます。そこから医療をより良くするための方法はもちろん、それを収益化する、または改善するための方法などを示していきます。その一連の流れを彼らがどのようなビジョンをもって進めているのか、しっかりと見てきたいと思います。

ただし、そのプロセスをそのまま

日本に持って帰ることは不可能だと 思っています。日本で実践するにあ たりどのようなバリアがあるのか、 それをどうしたら突破できるのかと いう部分も含めて、リアルな現場を 実際に見て、考えることが今回の留 学における最重要課題だと捉えてい ます。

全部をひとりでできる人はいない と思います。臨床医としてバリバリ のスーパードクターで、データを扱 えて統計にもすごく詳しい "医学の 神"のような人はいません。ですか ら僕は、問題解決に向けてどのよう なプロセスで進め、そのためにはど のようなステークホルダーに関わっ てもらえば良いのかということを考 えられるディレクターになりたいの です。僕はそれを"新しい時代の チーム医療"と呼んでいます。今で も "チーム医療" は注目されていま すが、そこにエンジニアやデータサ イエンティストなど、もっともっと 様々な人を巻き込んでチームを組む のが未来の医療なのではないかと妄 想しています。その妄想が実現可能 なのかどうかをしっかり見てきて、 このグノレットで、また報告をさせ ていただきたいと思います*。

最後にちょっと、東京医科歯科大 の宣伝をさせてください。

僕は大学に入ってからずっと、後輩からアドバイスを求められるたびに、「医学部なんてどこに行っても同じだよ」と言っていました。どこの大学でも医者になるプロセスは大きく変わらないと思っていたからです。でも、この留学が決まって全然違うと思いました。何しろチャンスの幅が違う。東京医科歯科大にいたから今考えているようなテーマでも留学が実現したわけです。

また環境も良かったと思います。「いろいろな人をつなげたい」と話しましたが、先輩や研究室にも同じようなことを考えている人たちがいて、相談できる先生もいました。そのように大学の中で同じ問題意識を持っている人たちと刺激し合えるというのは素晴らしい点でした。幸運をつかみやすい大学だと思います。



* 2019 年 12 月 1 日、留学から帰国した海老名さんにお会いしました。その模様は、後日グノーブルホームページ(www.gnoble.co.jp)にて公開いたします。

保護者座談会 2019 Gno-let

保護者座談会 2019

大学でもさらに楽しそうに勉強に向かっています。 グノーブルで培った"学ぶ心"は、 受験で燃え尽きるようなものではありません。

座談会にご参加いただいた保護者の皆さま: 大村 真由美さま 庄司 里香さま 馬場 愛子さま 渡辺 みうらさま

今年の保護者座談会は、『東大合格特集号』(Gno-let vol.23) にご登場いただいた、大村幹さん(東大理Ⅱ・都立小 石川中等教育)、庄司一毅さん(東大理工・開成)、馬場愛奈美さん(東大理Ⅱ・榕蔭)、渡辺藍子さん(東北大医・ 白百合学園)の保護者の皆さまにお集りいただきました。特集号では、それぞれの成功体験談を話してくれた卒業生 の皆さんですが、お母さまの目には、受験期の高校生ならではの危うい一面も見えていたようです。皆さまがいかに サポートされ、どのようなお気持ちでグノーブルにお子さまを託されていらしたのか。お話を伺いました。

(取材・文:吉村高廣)



大村 真中美さま

大村幹さんの

(都立小石川

東大理科二類1年

中等教育出身)

お母さま



上が じ かず き 庄司 一毅さんの お母さま 東大理科一類1年 (開成出身)



ば、まなる 馬場 愛奈美さんの お母さま 東大理科二類1年 (桜蔭出身)



カたなべ 渡辺 みうらさま







大村:帰ってくるのは毎日、終雷間 際のような状態で忙しくしています。 大学の合間に家庭教師のアルバイト をしたり、今まで自由に時間を使え なかった分、存分に学生生活を楽し んでいるようです。

庄司:大学では、「やりたいと思っ たことは全部やる」と言っていまし て、サークルもテニス2団体と、海 外ボランティアに入っています。そ んな状態ですから、今はほとんど顔 を合わせることがなくなりました。 私が仕事をしていますので、出勤時 には息子は寝ていますし、夜は私が 寝てから帰ってくるような日々で、 部屋がどういう状況になっているか 恐ろしいです(笑)。

馬場:娘は、大学では新しいものに チャレンジしたいとサークルもいろ いろ見て回って、 最終的には楽器未 経験で吹奏楽部に入ったんです。

クラシックバレエを小さい時から やっていまして、高校ではリズム水 泳部でしたので、その延長で何か探 すのかと思っていたら、選んだのは 吹奏楽のクラリネットでした。 调3 回練習があって、それ以外にも自主 練習や個別練習があり、それとは別 に、クラシックバレエの練習が调4 くらいありますので、結構忙しく過 ごしていますね。

渡辺: 勉強がとても大変で、毎週テ ストがあるので深夜〇時くらいまで 勉強しているようです。初めのうち は、LINE のビデオ通話で話してい ましたが、最近は「ゆっくり電話を

している暇がないの」と言われて、 私は少し寂しい思いをしています。

東京では、夜遅くても駅から5分 くらいの所に住んでいたのでさほど 心配もしませんでしたが、仙台では 駅から寮まで10分くらいかかり、 人通りも多くありません。それが一 番心配です。それでも、クラブ活動 は弓道部に入って頑張っているよう です。

親だから見えていた わが子の素顔

大村:基本的にはいつでも明るく振 る舞って、あまり大変そうな様子は 見せませんが、やるべきことはきち んとやるタイプです。ですから、中 学の時も学年で10位以下に落ちる

ことはなく、どんなに遊んでいるよ うに見えても、勉強のことで口出し したことはありませんでした。

ただ、宿題をやろうとしない時期 があったのには困りましたね。どう やら東大に入った学校の先輩から 「みんな宿題なんてやってないよ」 と言われて、「ああ、そういうもんな んだ! | と、都合よく思い込んでし まったようなんです。さすがに私も、 「いやいや、それはダメでしょ。宿題 はやろうよ と言ったことがありま す。そこそこの成績は取れていたの で、あまり口うるさく言わないほう がいいのかなとは思うようにしてい ました。

庄司:コツコツ勉強するタイプでは ありませんね。息子はゲーム性がな いと火がつかないんです。例えば、

難しい問題に挑戦するとか、ライバ ルと競い合うということがあると俄 然燃えます。私は、勉強は日頃から コツコツやるものだと思っていたの で、小学生の頃、それを息子に強制 しようとして、夫に注意されたこと があります。「人にはそれぞれのや り方があるし、この子はそういうタ イプではないと思うよ と言われま して、以来、一切口出ししないよう にしていました。

中学に入ってからも、「俺は塾に 行かずにひとりでやる!」と宣言し たので、私も、何も言わずに放って いました。ところが、次第に英語が ついていけなくなったんです。それ は私も察していましたが、あえて口 出しせずにいたところ、「英語だけ 塾に行かせてほしい と、本人から 言ってきたんです。

結果的には、高1から英語を、高 2からは数学もグノーブルでお世話 になりました。グノーブルの授業は 先生方が上手に息子の気持ちにス イッチを入れてくださったり、ゲー ム性を刺激してくださったおかげで、 息子も最後まで食らいついてやって いけたのだと思っています。

馬場:娘は、基本的にはマイペース です。でも、周りに何を言われよう と流されず、自分が「これだ! 」と 思ったものは絶対に譲らない頑固な ところもあります。

桜蔭は中1から塾に行く方がほと んどですが、私は、中学のうちから 塾で勉強する必要はないと考えてい ました。主人も私も中高時代、部活 に明け暮れていたので、まずは学校

保護者座談会 2019 Gno-let



生活を楽しんでほしいと思っていたんです。

ただ、息子が小6で中学受験グノーブルに入る時に、グノーブル代表の中山先生のお話を伺う機会があり、その時に「いずれ時期が来たら、娘も、絶対ここでお世話になろう」と強く思っていました。その"時期が来たら"の"時期"については「高2くらいかな」と思っていたのですが、高1の時に、「塾に行きたい」と言い出して、少し早めの入塾となりました。

渡辺:白百合のひとつ上の先輩がグ

ノーブルの評判を教えてくださり、ス タートダッシュ講座*を受講しました。

その後、まずは気がかりだった数学1教科だけ、纓田先生にお世話になることを決めて入りました。入ってからは、いつも泣いていましたね。塾が嫌で泣くのではなく、みんなについていけないと。また、男子がいるのも初めてだったので、環境に慣れるまで時間がかかりました。その頃は声も小さくて、心配性で、クラス分けテストの時などは不安でドキドキしていたようです。

皆さんのお話をお聞きしていると、



"天才肌のお子さん"という印象を受けますが、うちの娘は「心配だからコツコツやる」「怖いから必死でやる」という感じでしたね。です、「勉強かって、「勉強かって、「勉強かって、「勉強が持って、「勉強があったら、あました。数学に自信がありたい」と自分から、ましました。ちょうどその頃、おお大に対しました。を聞く機会があり、本人しました。を聞く機会があり、本になることにもしました。というでお世話になることにしました。

受験期の子どもとの接し方

渡辺:娘の場合、不安をつぶすために勉強に向かうというところもあったので、学習面については口出せず、不安と闘う娘の姿を見守るしてはいないました。むしろ私としてはないことが心配だったので「勉強はほどにして、早く寝なさい」と常々言っていました。母親としての主なサポートは食事です。タマスーでは毎日欠かさず、風邪をひかせないように体調面を心がけていました。

また、医学部は面接があるので事前の情報収集が必要になります。大学によって面接で聞かれそうな質問も異なりますので、それらの情報収集は私が担当していました。願書についても、単に履歴を書くところがありますので、各大学の特性を調べて願書づくりに必要な情報収集を私が行っていました。

馬場:娘は塾から帰ってきても、その日のうちに復習をしません。ごはんを食べて、お風呂に入って寝る、ほぼ毎日がこのサイクルの繰り返しでした。にもかかわらず、いつまでもダラダラと起きているので「早く

寝なさい」が私の口癖になっていました(笑)。

私はほとんど家にいましたが、物音を立てずに息を潜めるように過を すようなことはありませんでした。 静かな環境で勉強するほうが集中で きそうなものですが、娘はそうがまったらしく、常に誰かがいて、している な生活音があったほうが安心ですから 強に取り組めたようです。でもはは、直前期もなるべく外出は「しい が部屋から出てきた時はしたいってメタンスを崩さないようにしていました。

庄司:息子の機嫌を損ねないようにすることを一番に考えていました。そうは思っていても、どこで不機嫌のスイッチが入るかわからないのでなるべく「あれをしなさい、これをしなさい」とは言わないよう努めました。ふらりとリビングにやってた頃合いを見て「そろそろ寝たら」となが言うと、そこで息子が怒るんでも「寝なさい」はストレスになるから言わないでくれって(笑)。

ただ、考えてみますと、受験期はいろいろな話をしたと思いますね。 突然、散歩に行くからつき合ってほしいと言い出すこともありました。 ほとんどは他愛もない話をして終わりでしたが、そこで、煮詰まった告白を聞くこともあって、息子なりにいろいろ考えているんだなと思いました。

大村: うちの息子はおしゃべりが大好きで、「今日こういうことがあったよ」とか、「将来こういうことがしたいんだよ」と、様々な話をしてくれました。同級生のお母さんたちは、「子どもが全然、学校の話をしてくれない」と嘆いていました。きっと、普通の男の子はそうなのかもしれませんが、うちは本当によく話してくれましたね。



ただし、高3になると、学校の授業が私立校と比べて多少遅れ気味になって、そのあたりに若干苛立っていた時期もあります。特に物理・化学が遅れていて模試の点数が伸びず、私に対しても八つ当たり気味の時もありました。そんな時は「あ、そうなのね」と軽く受け流して余計なことは一切言いませんでした。

それでも、高3の終わり頃には自信もついて、「お母さん、僕受かるから心配しなくてもいいよ。受かったら、2割はお母さんのおかげだからね」と言ってくれたんです。それは

母親冥利につきましたね。

「受験で僕は成長したよ」と息子から言われたこともあります。すごいなと思いましたね。私が高3だった時にこんなに大人だったかなと。受験って子どもを育てますよね。つくづくそう思います。

父親と子どもとの関わり方

大村:うちは夫が息子の受験に熱心でして、何か言い始めると熱くなるのですが、私はそれが煩わしかったですね(笑)。ですから、私は言いた



*新中1対象の講座(2~3月に開講)。 21 保護者座談会 2019 Gno-let



いことがあっても、あえて言うのを 我慢していました。夫に対しては、 子どもがいない時に、「ちょっとあ あいう言い方やめたほうがいいん じゃないの と注意することも多々 ありましたね。

高3になると受験が現実のものに 思えてくるので、次第にストレスが かかってきますよね。そこにもって、 まるでわかったようなことを言われ

たら息子もイラつくでしょうし、そ

庄司:夫は息子が中学に入ってから は勉強に関して無関心を装っていま した。例えば中学、高校の学校行事 にもほとんど顔を出していませんし、 私が学校の話をしても相槌だけなの

うした息子の気持ちがわかるからこ そ、「お願いだからパパもあんまり 言わないで というのが私の気持ち でした。

馬場:うちもノータッチです。多分、 私立はどこを受けるか、直前までわ かっていなかったんじゃないでしょ うか(笑)。今、思えばありがたかっ たのは、センターを失敗して娘がへ こんでいた時、主人が「大丈夫、絶 対に愛奈美は大丈夫! | と言って励 ましたんです。その時は「どこまで 能天気なんだろう?」とも思いまし たが、その能天気さが、あの時の我 が家にとっては救いだったのかもし れません。

で、塾についても「帰りが遅いから

塾に行っているのだろう という感

じで、勉強に対する関与はほぼあり

ませんでした。

ただ、受験当日は全部、娘を送り に行っているんですよ。東大の時は、 横断歩道の向こう側にグノーブルの 先生がいらして、先生と娘が笑顔で 話しているのを見届けて帰ってきま した。最終的にはそういう感じでし たが、それまでの過程や、勉強の進 捗状況などは一切ノータッチでした

渡辺:うちも完全にノータッチでし た。一度だけ受験会場に娘を送って 行ってもらった時は「そのあとに、 愛宕神社にお参りしてきてね と私 が頼んでいたので、行ってきた証拠 のように写真をメールで送ってくれ ました。受験に関してはそのくらい の関わり方でしたね。



渡辺:まずは1クラスの人数が少な いということがあります。あとは、 先生の解説をただ聞いている授業ス タイルが娘はあまり好きではなかっ たので、先生とのやりとりをしなが ら授業が進んでゆくグノーブルなら 娘に合っていると思いました。

そして何より、スタートダッシュ 講座に参加した時に、子どもたちの 名前をすぐに覚えていただいて、お 声がけをしてもらえたことに感動し ました。娘は気持ちの小さい子でし たので、「この手厚さは安心だな」 と、ここしかないと思って入塾を決 めました。

馬場:グノーブルがいいんじゃない か、と目星をつけた上で、とりあえ ず他塾の説明会にも行きました。中 学受験と違って大学受験の場合は、 塾の先生と保護者の接点も減り、親 の出る幕も少なくなるだろうと思っ ていましたので、娘自身が先生と しっかり対話できそうか、信頼関係 を築けそうか、といった部分を慎重 に観察した結果、やっぱりグノーブ ルに勝る塾はありませんでした。

グノーブルの説明会での模擬授業 の時に感じたのは、授業の中味にも 引き込まれましたが、生徒を導く先 牛の力です。娘はちょっと人見知り のところがあって積極性に欠けると 感じていましたので、先生の接し方 に大きな安心感を覚えました。高3 になれば進路で悩むこともあるで しょう。そうした時に相談したいの は、やはり、生徒のことをしっかり 見てくれている先生ではないでしょ うか。そのあたりまで考えて、私は グノーブルに決めました。

庄司:私は塾選びに関わっていませ ん。と申しますのも、本人が中1の 時「俺は塾に行かない! | と啖呵を 切ったので、私は塾について調べる こともしませんでしたし、当然なが ら予備知識も皆無でした。そんな経 緯もあって、高1でいよいよ英語が 怪しくなってきた時も、塾選びにつ いては、息子が自分で情報を仕入れ てきて、相性や雰囲気を自分なりに 考えた結果、グノーブルでお世話に なることになったんです。

大村:「高1から塾に入る」と本人 が言っていたので、中3から私が塾 を探していました。そうした中で、 グノーブルの英語の方針に共感した んです。



グノーブルの英語は、大学受験の ためだけではなくて、大学に進学し たあとのことも見据えた理念を打ち 出していて、「これはいいな」と思っ たんです。息子は以前、将来の職業 に外交官を挙げていましたし、それ でなくとも、これからの時代は、大 学卒業後に海外で働くことも十分に 考えられます。そうしたことを考え ても、"使える英語"の土台づくりは

必須だろうと思っていました。

また、英単語を単純に丸暗記する のではなく、語源までさかのぼって 語彙を増やしていくやり方も、常々 「僕は暗記学習が嫌いだ」と言って いた息子にはピッタリだろうと思い ました。実際にグノーブルに通うお 友達のお母さんに塾の様子を聞いた こともありますが、「グノーブルは いいよ とおっしゃっていたので、私





保護者座談会 2019 Gno-let

の中では「絶対にここにしよう!」 と決めていました。

垣間見えてきた グノーブルの魅力

大村: 受験を乗り切るためには、やはり忍耐が必要だと思います。そしてその忍耐力は、この先、様々な局面で役立つと思います。ですから、まずは受験を乗り越えられるだけの心の強さのようなものを、グノーブルで厳しく鍛えていただきながら培ってほしいと思っていたんです。

ところがグノーブルは、「つらい 受験勉強を耐え抜く」といった世界 とは別次元で、息子は学ぶほどに勉 強が好きになっていきました。いろ いろな意味で、息子は受験を経てず いぶん成長したと思います。その背 景には、明らかにグノーブルで初め て知った"学ぶ楽しさ"があったよ うです。グノーブルで学ぶことが楽 しくて仕方ないという様子で、学校 行事と重なった時以外は一日も休ん でいないはずです。息子はグノーブ ルの話をする時は、いつもすごく楽 しそうでした。

実際の授業では、英語でも数学でもいつも演習があって、その答案をその場で添削してくださり、コメントをつけてくださるそうです。先生にしてみれば授業内で添削するのは大変な労力だろうと思いますが、そうしたこと一つひとつが息子の頑張りの根拠になっていたように思います

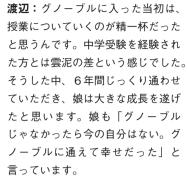
庄司:私は大村さんほど息子のことを分析できてはいません。何しろ私の中では、「グノーブルにお任せしていれば大丈夫」という思いがあって、かなり依存していたかもしれません。と申しますのも、息子は相性が合わないものは一切受け入れませんし、すぐに自分で見切りをつけてしまいます。ところが、高1の終わ

りくらいからグノーブルにお世話に なって、ずっと続けてこられたとい うことは、息子が先生を深く深く信 頼していた証しでしょうし、本当に 相性がいいのだろうと思っていまし た。

息子は、添削でいいコメントをいただけたりすると、それはもうご機嫌で、問題の解法についてや解説の時に先生がお話しになったことなどを楽しそうに話してくれました。勉強にある種のゲーム性のようなものを感じていたからかもしれませんが「楽しくやっているんだな」と思えることは、受験生の親としては何より安心できる瞬間でした。

馬場:うちは高1から数学と英語を、最終的には二次の全科目をグノートータルで学ばせていただきまして、トータルで15人の先生にお世話によりました。娘の話を聞いて、学問におせて、先対したちちとり素晴らしたちと思ったと思ったと思いがらず、したので、一切が、のでお世話になったことと話し合っていたほどです。

そして今、大学に入ってさらに楽 しそうに勉強に向かっている娘の姿 を見ていると、やはりグノーブルで 培った"学ぶ心"は、受験で燃え尽 きるようなものではなかったと、改 めて感じています。テクニックだけ を詰め込むようなものだったら、仮 にそれで合格できたとしても、大学 に入ったことがゴールになって、今 の娘の目の輝きはなかったと思いま す。グノーブルで、本当に学問の楽 しさ、追求する面白さを学んで 「もっとたくさんのことを知りた い! という好奇心がより深まり、 それが今の娘の姿につながっている のは間違いありません。



気が小さくて、声も小さかった娘が、グノーブルで勉強が好きになって、そこからいいサイクルに乗り自信を持って前に進めるようにななしてはこれを何よりうれしく思ってはこれを何よりうちは、何かさいるものです。でも、娘はそれを大でいるものです。でも、娘はきまれているものです。でも、娘はきまれているものです。でも、娘はきまれているものです。でもなかでされたながなかででも、ところがグノーブルにような、"何か"があったのだろうと感じています。



渡辺: グノーブルではまず、纓田先 生に数学の自信をつけていただきま した。そして英語でも、先生方のお 話をしっかり聞いて、そのアドバイ スを忠実に守り、成績も徐々に上 がってゆき、医学部という大きな夢 が次第に現実味を帯びてきたのだろ うと思います。体力的な面を考えて、 「推薦で入れるところを目指せばい い」という次元から、180度方向転 換して、「京都大学の医学部を目指 したいしという思いを語れるように なりました。結果的には、センター で失敗して東北大学の医学部に行き ましたが、それでも、見知らぬ土地 で一人暮らしをしながら勉強もする ということで、積極的に自立の一歩 を踏み出していきました。それらは 全部、グノーブルでの"学び"があっ



たからだと思い、感謝しています。 馬場:娘は合格体験記をとても丁寧 に書いていました。先生に対する感 謝の気持ちを一生懸命書いていて、 「こんなことを考えていたのか」と、 親が知らなかった一面を垣間見たと 同時に、私が思っていた以上に、先 生との信頼関係が深かったことを知 りました。

庄司:グノーブルの先生のことはよく話に出ました。そんな時は、玄関を開けた瞬間から興奮状態で話すので、勢いに圧倒されながら聞いていました。この時期の男の子の場合、よほどのインパクトがなければいちいち人の話はしませんよね。ですから息子にとってグノーブルの先生は、相当衝撃的だったと思うんです。

大村:息子はグノーブルで本当に変わりました。つくづく大人になったなと思います。最初の頃は、きちんと予習をしていかなかったので数学で一番上のクラスには入れなかった

んです。それが本人は悔しくて、とにかく数学を一生懸命頑張って、数Ⅲでは一番上のクラスにしていただけました。あそこまでの粘り強さは、以前は感じられませんでしたね。

グノーブルに子どもを託して 良かった

大村:学習面については、しっかりと力をつけていただいたおかげで、さほど深刻にならずとも合格することができました。学校行事への取り組みなども含め、ギリギリまで高校生活をエンジョイできたのも、グノーブルならではの勉強法があったからだと思っています。

また、学力だけではなくいろいろ な先生に出会えて、一人ひとりの先 生方から違った刺激を受けたことが 息子にとっては良かったと思ってい ます。

学校はもちろん大事です。でも、



保護者座談会 2019 Gno-let



今の時代は、それだけでは足りないものがあるのかもしれません。大学受験ということを考えても、これから大人になっていく過程を考えても、学校とは異なった視野での学びが必要ではないかと思います。そして、息子にとってはそれを学ぶもうひとつの学び舎がグノーブルでした。私はグノーブルを選び、息子を3年間託して、本当に良かったと思っています。

庄司:息子の場合、昔から勉強方法が自己流だったと思うんです。ちゃんとした基礎があって独自路線を貫くのなら結構です。けれど彼の場合は、最初から自分なりのやり方をし、それに慣れ、貫き、中学に入ししまってが正されることとなるで、グノーブルでお世話に当になったと思ってもきたことは本ので、大学にも合格できたと思います。息子は、一般論で「こういものも

大事だよ と言われても耳を貸そう としません。いろんなアドバイスを いただいても、「自分のやり方が活 かせる | が大前提としてあるのでな かなか納得しません。そこが親とし ては一番心配だったところでもあり ましたが、グノーブルでお世話に なって変わりました。特に後半です ね、高3の秋、10月から受験直前ぐ らいまでは著しく変化しました。 しっかり腰を据えて、逆算しながら 勉強を進めていったほうがいいと本 人も自覚していたようですし、その あたりをうまくリードしてくださっ たのはグノーブルの先生方だったと 思います。

また、高3の運動会が終わったあたりで、「学校に行きたくない、何をするのも面倒くさい」という時期がありました。運動会で全力を出し切ってしまい、何かが燃え尽きたように感じていたのでしょうね。そこで髪を染めたりして、もがきながら

自分で変化を求めていたのですが、 私は反対せずに見ていることしかで きませんでした。そんな時にもグ ノーブルには全く嫌がることもなく 通い続けていました。息子にとって グノーブルはある種の救いだったと 思います。先生方には心から感謝し ています。

馬場:部活と習い事のバレエどちらも100%でやる。学校の勉強も100%でやる。これが我が家のルールでした。事実、それを娘は実践していましたが、気持ちはあってもそれができないほど多忙な時期があるのが受験生です。そんな我が家の"100%ルール"を、維持させてくださったのもグノーブルの先生方の心配りでした。

どの先生方も、生徒のことをよく 把握されているので、子どもたちの 状態や学校の事情に合わせて学習の 優先順位を明示してくださいます。 「忙しそうだから、今はこれ、取らな くていいよ」と声をかけてくださっ たり、どうしてもお休みしなくては ならなかった時は、休んだ分のフォ ローアップを丁寧にしてくださり、 いろいろな部分の穴埋めをしていた だきながら、なんとか追いついてい くことができました。

また、センターで失敗した時は、いつも沈着冷静な娘が泣いてしまい、親ながらどう声かけをしたら良いものかわからず、思わず「グノーブルの先生にご相談してみたら」と言ってしまったんです。それから次のグノーブルの授業まで何日間かあって、さすがに娘にも笑顔はなく、家の授業で先生に相談したところ、明るく接してくださり、その日から娘にも実顔が戻りました。

「助かった」と、私はつくづく思いましたし、先生からのアドバイスがなかったら結果がどうなっていたかわかりません。

娘が今、どういう状況に置かれているのか、何を悩んでいるのか、それに対してどう言ったらいいのか、そういうことを総合的に考えて言葉を発するのは、やはりプロの先生でないとできないと、あの時に心の底から実感しました。

渡辺:ウエイトが大きかったのは、 やっぱり精神的な面でのサポートで しょうか。引っ込み思案だった娘が、 グノーブルに通うようになって、何 事においても自信を持てるように なったこと。これに尽きます。

学習面でも細かい配慮をいただきました。例えば、自宅で小論文を書いて提出すると、添削を音声ファイルで送り返してくださったり。そういう先生とのやりとりを見ていても、きっと授業以外でもたくさんのサポートをしてくださっているのだろうと思っていました。

あと、数学の先生が大好きで、いろいろとご相談していたようです。 気が小さいので手書きのお守りをいただいたり、絵やメッセージなども 頂戴しました。それらを家の見える ところに貼ったり、スマートフォン の待ち受け画面にしたりして、そんなーつひとつが娘の心の支えになって、受験を乗り越えられたのだと思います。本当にありがとうございました。

お子さんが受験を迎える方に

大村:息子はグノーブルを信じて、わき目も振らずグノーブルの問題だけをひたすら解いていました。そうした勉強方法が良かったのだと思っています。グノーブルを信じて勉強していれば目標の大学に入れると思います。ですから親御さんもわき目も振らず、応援してあげてください。 庄司:子どもはそれなりに考えてやっています。合う、合わないは自分でわかっていて、そんな中で自分 が決めたものをやり抜く力も持っていると思うので、そこは親も信じてあげて、あれこれ言わずに見守ることが大事です。でも、困っている時は横からそっと声をかけてあげる、そういう感じで接していれば精神的にも乗り越えられると思います。

馬場:いろいろな情報が世の中には あふれていますので、どうしても目 や耳に入ってきます。そこで、まず 親のほうが精神的にぶれないことが 大事です。親の精神状態は子どもに も影響すると思いますので、まずは 親が精神的に安定して過ごすことが 大切かと思います。もちろん簡単な ことではありません。でも、何とか エ夫して子どもの前ではいつも落ち 着いて、穏やかに接してあげてくだ さい。

渡辺:大学受験になると、親は、精神面のサポートと健康管理くらいしかできないと思うので、まずはそこをしっかり考えてあげることが大事

かと思います。あと、子どもも自立 していく時期なので、こちらからは あれこれ聞かないように心掛けてい ました。私の経験上、子どものほう から相談して来たことに対しても、 深い意見は言わないほうがいいと思 います。親のほうが熱くなって意見 すると、けんかになったり、子ども の悩みがさらに深くなったりすると 思うので、親はただひたすら聞き役 にまわっていれば、子どもはそれだ けで安心すると思います。





Gnoble

大学受験 グノーブル

ホームページから知る Gnoble!

大学受験Gnoble



大学受験グノーブルホームページTOP画面より 「グノーブル各科目の案内」をClick!

グノーブルが大切にしている、 斬新な指導方針を紹介します。

[各科目パネルをクリックしてください]

英語

中学生の英語/高校生の英語

数学

中学生の数学/高校生の数学

理科

物理/化学/生物

国語

現代文/古文·漢文/小論文

『グノーブル各科目の案内』ではグノーブルが 大切にしている、斬新な指導方針を紹介してい ます。中学部・大学受験各科の講師陣からのメ ッセージをぜひご覧ください。

各科目のコーナーには、グノーブル卒業生から の熱いコメントも掲載されています。





大学受験グノーブルホームページへは PC、 スマホ、タブレットからアクセスできます。

https://www.gnoble.co.jp

グノーブルが大切にしていること。

英語

中学生の英語-大学受験に向けた最初の段階の正しい学習法をグノーブルで…

高校生の英語(1)-東大や医学部受験に向けても、4技能を問う民間テストにも、特別な… 高校生の英語(2)-グノーブルの添削によってどのような語学力を身につけること…



数学

中学生の数学-生徒たちが頭を使うこと自体を楽しいと感じ、数学の世界に興味を持てるように…

高校生の数学-数学の学習を通して将来に役立つものの考え方、見方を身につける。こうした・



理科

高校生の物理-探求の歴史を追体験できる授業。入試では満点解答を目指せます…

高校生の化学・生物 - 単なる暗記にとどまらない本質的な理解こそが、東大をはじめとした…



国語

高校生の国語-東大・医学部を目指すためにはどのように国語の力をつけていくべきか…

高校生の小論文 - "知の力"を存分に発揮できる魅力的な小論文を書くために…



続きはWebでご覧ください。 QRコードから今すぐチェック!



【中1・2・3】英・数 【高1】英・数・生・古 【高2】英・数・物・化・生・現・古 【大学受験生:高3・既卒】英・数・物・化・生・国・小論

グノーブルで、頭をフルに使う楽しさを実感してください!



グノーブルにアクセス、東大にアクセス www.gnoble.co.jp





中学受験グノーブルから

Gno-let

国語講師座談会

大澤 塁×高橋祥一郎×兵頭徹治×山下倫央





受験は国語の大きな世界の一部でしかありません。

ゆえにその広大な世界を享受できるよう生徒たちの理解力、思考力、 精神年齢を上げていくというのがグノーブルの国語のねらいです。

中学受験グノーブルでは、かねてより子どもたちには学習を通して、まず学ぶことの楽しさを知ってほしいと考えています。 なぜなら勉強の楽しさを知り、自発的に学ぶことができるようになれば、子どもたちの可能性は大きく伸びてゆくからです。 そこで今回は、具体的な内容や指導法を国語科の講師に聞いてみました。





中学受験を通して身につく国語の力

編集部:中学受験を通して身につく 国語の力とはどのようなものとお考 えでしょうか。

兵頭: 国語は根本的にはコミュニケーションを学ぶ教科だと思っています。相手の問いかけを正しく理解し、自分なりに応える。大人になってもずっとこうしたことを続けていくわけなので、生徒たちにはグノーブルの授業でのやりとりを通して、対話できる力を身につけてほしいと思っています。

大澤: これもコミュニケーションの 一側面ですが、文章を書いて思いを 相手に伝えるという力を身につける 点も大切だと思います。

また、自分だけではなくて相手が何を考えているのかということを文章から読み取る力というのも、中学受験の学習を通して伸ばしていきたい力だと思います。

高橋:書いてあることを読み取る力はとても大切だと思います。まず文章を読んで何が書いてあるのかということをつかみ、その上で文章を書いた人が何を伝えようとしているのかをきちんと捉えること。こうした読み取る力を身につけてもらうことを意識して普段から指導にあたっています。

授業では、文中の言葉を一つひと つ噛みしめながら文章を読んだり、 視点を変えて読むと見えてくる内容 を示したりすることで、生徒自身がひ とりで読む時にはなかなか実践しづ らい点を手助けするように配慮して います。

読むということについてさらに言うと、話の流れをつかむこと、つまり、前に書いてある内容と今読んでいる内容をつなげて理解するということが苦手な生徒が案外多い気がします。 授業では単に問題を解くだけでは

なく、講師と生徒たちとが読んだ文章について対話をしながら、内容の理解を深められるような指導を心掛けています。こうしたやりとりを積み重ねていくことによって、確かな読解力を身につけることができると考えています。

山下: 中学受験で出題される文章は、小学生にとって身近な生活の中で体験できることの枠からはみ出るものが少なくありません。つまり、高校生や大学生が読者層であるような文章を読まなければいけないということです。中学受験の勉強を通して身につく国語の力というのは、結果的にそのような内容の深い文章というものを理解できるようになることだと思います。

国語においては、いわゆる背伸びをさせることが、子どもの成長を促す面があると思います。読書でも、今の精神年齢にちょうどいいものを与えることは悪いことではありませんが、それだけでは未知の事柄に出合うことで生じる困難や気づきは得られません。グノーブルでの国語の授業は背伸びをする機会であり、こうした精神的な成長というものも国語の学習を通して獲得されていくもののひとつだと思っています。

中学受験国語の入試問題

編集部:入試問題の国語における昨 今の傾向とこれまでとの変化につい てはいかがでしょうか。

兵頭:ここ15年くらいの大きな流れで言えば、最難関校とされる開成中、 桜蔭中の出題傾向が記述問題中心になったことが、多くの学校の入試問題に影響を与えたと思います。

大澤: もちろん選択問題中心の出題をする学校もありますが、全く記述問題が出ないという学校を探すのも難しくなってきています。また、新しい傾向という点では、2018 年度の開成

中で出題された例*が有名ですが、公立中高一貫校で出題される社会科と融合したような表やグラフから読み取って自分の考えを書かせる問題が増えています。

高橋:入試における知識分野の問われ方というのも変わってきていると感じます。例えば細かい文法事項を問う出題や、知識問題だけで大問を構成するような出題はほとんどの学校でなくなっています。語彙に関する出題であっても、文脈の中できちんとその言葉の意味がわかっているかどうかを問う学校が増えてきていると思います。

選択式か記述式かという形式的な 側面以上に、問われているものの質 そのものがかなり変わってきている 印象があります。

覚えたことを当てはめて対応する力だけではなく、吟味しながら思考を働かせる力を問う出題が増えていると言えるでしょう。こうした出題は、以前であれば最難関といわれる学校で多く見られたのに対して、昨今では難易度を問わず多くの学校で出題されるようになったと感じています。これは、少子高齢化やグローバル化に伴い、情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、問題点を冷静に把握し、前例にとらわれない柔軟な思考力と行動力を発揮できる人材が強く求められていることと無関係ではないように思えます。

山下: 今の話を踏まえてですが、中学校側からすると、形式的に量をこなすような受験勉強に対する不信感、疎ましさというのがあるように思います。中学入試では慣用句が出るぞ、じゃあ慣用句を100個覚えよう、ほら出た、点が取れた、というようなことではなく、きちんと言葉の知識、素養を身につけている生徒に入学してほしい。そういう現場の先生の思いから、一覧表の暗記で対応できる単純な知識問題は減ってきたのではない

*デパートで販売しているお弁当の売れ行きに関するグラフを基にした問題が出題されました。

中学受験グノーブルから Gno-let

かと予想します。

また、大問一つひとつの文章の長さはとても長くなっています。20年前と比較すると1.5倍くらい長くなっている印象です。中学受験ではある程度のボリュームがある文章を読み切る力が必要でしょう。この長文化と知識問題に関する現象というのは関係があるように思います。どれだけその場で考えているかということを重視しているのです。

設問形式でいうと、選択式の問題であれば、どれかひとつが正しいという前提で正解を探すことになりますが、記述問題というのはそういう用意された正解がありません。自分で読み、考えて自分で説明するしかないのです。記述問題には生徒のそういった力を見たいという意図があるのでしょう。

ところで一般に記述問題イコール 文章力、表現力を問われていると解 釈する傾向があります。そういう力が 皆無では困りますが、文章をきちんと 読み、その内容を自分で整理し脈絡 をつけて人に差し出す力、すなわち 説明力こそが本来的な記述力なので す。



兵頭:保護者の方々が受験された時代とは、出題傾向の上ではかなり違うものがあると思います。一概に難しくなっているというわけではありませんが、出題内容が高度になっていることは間違いないと思います。

山下: ただし、昔とは違ってきているという認識は大切ですが、事前に保護者の方が入試問題に目を通し、研究し、家での指導に役立てる、要するに教える、というようなことは必要ありません。よほど成熟し、仕上がった状態の子どもでないと、いきなり入試問題そのものにあたってもきちんと理解することはできないからです。

グノーブルの国語について① 【低学年のテキスト】

編集部: グノーブルでは小学校2年 生から国語の授業を毎週1回行って います。2・3年生の国語に関して、 どのような特色があるのかをお聞か せください。

高橋:まず文章を読むという点では、 2・3年生では小学校の授業なら、1 か月ぐらいかけて読むような分量を 1回の授業で扱っていきます。 その上で、2年生は出来事の因果 関係を問うような記述問題に一つひ とつ取り組むことを通して、本文の内 容を整理していく構成になっていま す。

3年生になるとこうしたことに加 えて、文章全体を俯瞰しないと解け ないような問題に毎回じっくり時間を かけて取り組みます。

グノーブルでは文章の内容を正確に読み取る訓練の一環として記述問題に取り組んでもらいます。生徒たちには読み取った内容を自分の言葉で表現することで文章の構成力や語彙力を身につけてもらう。そうしたことを意識的に2・3年生から進めているのがグノーブルの国語の特徴です。 大澤:手前味噌になってしまいますが、テキスト自体、低学年の国語教育における可能性の広がりを強く感じる意欲的なものだと思います。

例えば、2年生の文章であっても 一つひとつの題材に必ずテーマがあ ります。生徒たちと向き合って授業を していくと、今日はこういうお話だっ たよね、こういう見方もできるよね、 と様々に話題が広がります。そのた め私自身、授業の準備をいつも楽し みにしています。「どうしたらこれを 伝えられるのか」を考えることによっ て、教える側も多くを学べる教材だと 思います。そうしたことを2年生のテ キストから毎週感じています。

3年生になると、2年生より設問数 が減っているので、一見簡単になっ たように見える場合もあります。しか し実際は設問一つひとつがより深く なっているのです。

授業はじっくり文章を読んで内容を理解した上で、生徒に書いてもらったものをその場で添削していくというスタイルです。こういう取り組みを毎回している生徒たちが、この先4、5、6年生になってどんなふうに伸びていくのかという点も楽しみにしながらいつも授業をしています。

山下: 当たり前のことですが文章というのは、一部の例外を除けば、問題を解くために書かれたものではありません。一般的には作者、書き手が何かを伝える、何かを届けるために書かれたものです。

そうである以上、何が自分に届いたのか、何を自分が感じたのかという検証作業、書き手と読み手のキャッチボールのような体験こそが本来的な文章読解のはずです。ところが、それを入試問題という枠組みだけで捉えてしまうと、どうしても書いてあることから答えを探すだけという単なる検索作業に陥りがちです。そこにはメッセージの重みも感性の生々しさもなくなります。

低学年の子どもに、要領を身につけさせ、何にも考えなくていいから探せば良いという経験を積ませる必要はないでしょう。低学年の生徒たちが出合う文章というのは、自分自身の魂に響くもののほうがいい。「そういうことなのか」という気づきであったり、悲しくなったり、楽しくなったり、感動してみたり、そういう感情が伴うものでなければ、わざわざ教室の椅子に座って授業を受ける意味がないと思います。

グノーブルの国語について② 【低学年の授業】

編集部: 低学年ならではの授業の工夫、気をつけていることを教えてください。

大澤:とにかくこちらの考えを押し付けないこと。生徒とのやりとりの中でうまく思いを引き出すことに気をつけています。

高橋: 例えば2年生はまず書いてある内容に興味を持ってもらわないことには生徒が授業に参加できないので、そこをどうするかに毎回腐心しています。クラスの生徒たちの精神年齢がどのくらいなのか、どういう声か



けをしていくと良いのか、どうすれば 惹きつけられるのか、日々観察しなが ら興味を引き起こすための仕掛けを 工夫しています。この部分は非常に 大切です。

先ほどのお話から、テキストではかなり難しい内容を扱っているようなイメージを持たれたかもしれませんが、いたずらに難解な文章を選出しているわけではありません。たとえ文章は短くても確たるテーマがあるもの、登場人物の心境の変化や時代的な背景が読み取れるものなど読み応えのある文章に触れてもらい、授業が終わったあとに何かを得たと感じてもらえることを目標にしています。ここが授業の難しさであり、やりがいでもある部分だと思っています。

編集部: 低学年の保護者の皆さまに、 家庭学習での国語の取り組み方について、アドバイスはありますか。

高橋:2・3年生のうちは、いわゆる 宿題のようなものは出していません が、テキストの最後に授業で扱った 文章の内容を踏まえたテーマ作文を 書く問題がついており、自宅で取り組 んで提出していただければ添削して お返ししています。読んだ文章の テーマを自分に引きつけて考えるこ とによって、内容の理解をさらに深められると思っています。作文を実際に書かなくても、読んだ内容についてご家族で会話を交わしていただけると、お子さんの見地を深めることに役立つのではないでしょうか。

山下: ご家庭での取り組みは、個人差も大きいのでなるべく一律で課題を課すということは避けています。勉強が形だけになってしまい、実感する、理解する、わかる、頷く、こうしたことを抜きにしてただやらせるというのはおすすめできません。

さっき大澤先生が「押し付けない」 という言い方をしましたが、これは単 に好きにさせる、自由にさせるという ことではなく、生徒本人が自らの実感 を伴ってわかったという状態にもっ ていくべきであって、そうした過程も ないまま答えを先生が押し付けては いけないという意味です。これについ ては家庭学習でも同じであって、形 式的な義務として処理させるような やり方は問題があります。

ただし、活字を読み切る力という のは身につけてほしいと思います。2 年生の文章はそれほど長くないので、 自分で音読ができるようになってほ しいですね。

中学受験グノーブルから





グノーブルの国語について③ 【高学年の授業】

編集部:4年生以上、高学年のグ ノーブルの授業の特徴は何でしょう か。

高橋:長文を読む時間と記述する時間を十分に確保している点です。

書くことについて言えば、短時間で記述の指導をしようとすると、形式的にひと言ふた言しか書けなかったのに授業が先に進んでいくということになりがちですが、グノーブルの国語の授業は、生徒が考えて書くことにかなり長い時間をかけることができます。

もし考えあぐねている生徒がいた ら、講師がヒントを出したりアドバイ スをしたりして生徒に書くことを促 します。一見何も書けていないように 見える生徒でも、何かしら自分の言 葉を捻出しようとしている時間に なっています。そうした時間を積み重 ねることで、書くことが苦手だった生 徒も、ある時から突然いろいろと書き 出すようになり、いつの間にかとても 上手に書けるようになっていたとい うことはよくあります。 これは押し付けではなく、主体的にきちんと読んで考えるという習慣が身につけられる授業を行っているからこその成果だと思います。

兵頭:読むことについても、先ほど触れたとおりしっかり時間を割くようにしています。おそらく他の進学塾に比べても 1.5 倍、またはそれ以上読解に時間をかけているのではないでしょうか。

受験指導をしているので、残された時間が短いほど合格に直結する内容を選ばざるを得ないため、結果的にどうしても論理的、客観的な文章の読み方や得点力を養成するための学習に終始しがちです。このこと自体は必ずしも悪いことではありませんが、いわゆる最難関中では、本文中にはっきりと手掛かりがあるわけではなかったり、いくつかの手掛かりを総合的に自分の頭の中でまとめ上げなくてはいけなかったりするような出題が見られ、それらの問いに対応できるかどうかで合否が分かれます。

グノーブルでは読解の学習において時間に余裕がある分、講師が単に 論理的に解説するだけではなくて、 文章の様々な背景や立場や年齢など による人々の考え方、感じ方の違いに まで対話を通して踏み込めるので授 業の幅が大きく広がり、生徒自身が 深く納得したり、自ら気づいたり想像 力を伸ばす機会が増えます。その結 果として、本質的な理解を問う今の 入試問題にも対応できるようになっ ていくのです。

毎回の授業で文章のテーマをきちんと理解していればこそ、似たようなテーマの文章が出てきた時「あっ、あの時にやったあれと同じだ!」と、一度手に入れたものを自分の内から取り出して使えるようにもなるのです。こうした実感の伴った理解とでも言うべきものを授業によって育んでいくところにグノーブルの国語の大きな特長があると思っています。

山下: 進学塾ですから、受験に役立つことを学習するのは当然ですが、受験の成功だけをゴールに考えているわけではありません。受験は国語の大きな世界の一部でしかなくて、その意味では受験の枠を超えて生徒たちの理解力、思考力、精神年齢を上げていくというのがグノーブルの国語のねらいです。

教材の選び方にしても必ずしも入 試に出題されそうなものを基準とし て選んでいるわけではありません。も ちろん全く出そうもないものを意図 的に選んではいませんが、出たこと があるから選ぶというものでもない。 過去の傾向に過剰に合わせようとす ることは、子どもの未来の可能性を狭 めることにもなります。教材選びの基 準は、「それを読むことによって子ど もたちの今後の成長につながるかど うか」ということです。

そうした成長の積み重ねの結果、 入試で問われる話題、内容をごく自 然に自分の内部に収められるような 生徒を送り出せれば何よりだと思い ます。

授業時間に関しては兵頭先生がお 話しされたとおりで、時間が短いと最 低限のノルマを果たすような授業になってしまいます。ノルマというのは、この問題とこの問題が解ければ良いというようなことですが、それは結局過去の傾向の確認、踏襲になりがちです。そのノルマよりもプラスアルファのことができるようになった時、定型的な解法の指導以上に、子どもたちの成長に寄与するような授業が実現すると考えています。

グノーブルの国語について④ 【6年生の志望校対策】

編集部:受験学年になった時のグ ノーブルでの取り組み方をお聞かせ ください。

高橋:6年生の9月以降は日曜日に 志望校別特訓の授業が始まり、志望 校に即した対策を本格的に行います。 また、同時に各生徒に併願校を含め て入試問題の演習をしてもらい、添 削をしてお返しします。このように集 団の授業と個別の対応とを並行して 行っております。

本質的な国語の力があればどんな 学校でも対応できると考えて我々は 指導しています。ただ、受験では1点 を争う熾烈な争いになるので、やはり 各学校の出題形式に慣れるなどの点 についても、最後にしっかりと仕上げ ていきます。

兵頭: 志望校別特訓の国語の授業時間は105分です。80分や90分ほどで授業を行う塾も多いようですが、演習時間を50分程度とると、30分ほどしか解説できる時間がなくなってしまいます。そうすると、本当に駆け足になってしまい、答え合わせに近いような授業にもなりかねません。

演習時間よりも長い時間を解説に 割くことで、その学校が何を求めて いるのか、この問いではどの程度得 点すべきだったのか、そしてその学 校で合格点を取るためには具体的に どのような考え方・技術が必要なの か、といったところまで志望校対策を 丁寧に行うことができます。

その上で、普段の授業と同じように、せっかくこんなにも味わい深い文章を扱うのだからこの話はしてあげたいな、ということもあわせると、気をつけてはいるものの、つい授業時間が延びてしまうこともありますね(笑)。

山下:学校別対策の教材について形式という側面で考えれば、50分なら50分の限られた試験時間内でどこまで処理できるかが最終的に重要な点なので、分量や出題形式、大問構成などの形式面で対応した教材を扱うことも一定の効果があると思います。

一方、文章の内容の側面ですが、 そこは形式面と齟齬がない限り、文章自体が読むに値する、つまり仮に その学校を受験しない生徒が読んで も面白い、と思ってくれるような内容 である必要があると思います。

当たり前のことを言っていると思われるかもしれませんが、従来の対策教材は、内容そっちのけで形式さえ似ていれば良くて、文章の内容を軽視しているものが多かったように感じています。しかし、内容あっての

形式であり、やはり授業としてしっかり成立する教材でありたいと考えています。

何点取れたかの確認以外に価値が 見いだせないような教材ではなく、解 答後50、60分の授業をしても興味を 抱きながら盛り上がり、生徒自身で何 かを見つけられるような教材がいい ですね。

読書について

編集部:お子さんたちの読書についてはどのようにお考えですか。

大澤: 好きな本をいっぱい読んでもらえたら良いと思います。入試に出るからとか、そういう観点で選ぶ必要はありません。何か効果を求めて読むのではなく、新しい世界を知るために読んでもらえればいいかなと思っています。

兵頭:保護者の方からおすすめの本はありますか、とよく聞かれますが、特におすすめというものはありません。好きならたくさん読んでもらえたらいいと思いますし、嫌いなら嫌いでグノーブルの教材は深く考えられる、そして楽しめる文章が多いので、授





業を通して読んでいるだけでも入試に向けて十分対策になると思います。

中にはあまり読書が好きではなかったけれども「前回の授業がすごく楽しかったから、図書館でその本を借りてきたよ」などと話してくれる生徒もいます。授業が積極的な読書のきっかけになっているのだとしたら、それは大変うれしいことです。

高橋: 先ほどもありましたが、つまり 長い時間活字を読むことができる気 力・体力というのは、国語の授業を 受けるにしても、入学試験を受けるに しても、鍛えておくに越したことはな いと思います。そういった意味では読 書をすることはある程度必要なこと です。

特に幼い頃から本に親しんでおく ことが大事なように思います。その 際、読んだ本の内容について大人と 会話すると、得られるものがより豊か になるでしょう。

お子さんがなかなか読書をしようとしないというご相談を保護者の方から受けた時には、親子で同じ本を読むことを勧めています。読んだ内容について親子で会話することで、お子さんの読書に対する意欲を引き出すことができます。「どこまで読んだの?」と、進捗を確かめ合うだけでもお子さんの励みになると思います。山下:どうやったら幼いうちから自然に活字に親しみ、いつも手が伸びる場所に本を置いておくような子に

なるのかな、ということをよく考えて います。

子どもは親を模倣して育つ側面があるので、親が日頃から本を読んでいると自然にそれをまねして、しかもそれに価値があると思い、お父さん、お母さんが読んでいる本を読めるようになりたいなという、ある意味無謀な憧れから読書習慣が始まることもあると思います。ただし、実際は当然様々な家庭事情があるので、なかなか一概にこれが良いです、こうしてくださいとは言えません。

ただし、子どもの感性というものは 生まれた時から少しずつつくられて いく部分があるので、4年生ぐらいか ら、突然、読書習慣を人為的に強制す るというのはとても難しいことだと 思っています。

保護者へのメッセージ

編集部:最後に、受験生を見守る保護者の皆さまへメッセージをお願い します。

高橋: お子さんが前向きに勉強したいと思える環境づくりを心掛けて、日々接していただきたいと思っています。

私たちは授業の中で、生徒自身が 面白い、もっと知りたいと感じられる 時間をつくることを第一に考えてお ります。単なる押し付けになってしま うと、期待する効果は結局得られま せん。受験勉強であっても、学ぶこと とはこんなに面白いことなのだと感 じられるような環境づくりを心掛け てほしいと思います。

高学年になって受験が近づいてくるとテストの点数はどうしても気になります。これはある程度避けることはできないことですが、そういった側面を幼い頃からあまりにも意識しすぎてしまうと、勉強がテストで点数を取るための手段になってしまい、学ぶ喜びが得られなくなり、結果として学力の向上が図れなくなる恐れがあります。

また、国語が嫌いだという生徒の多くはその理由として、答えがひとつじゃないから、とよく言います。そして、そんな生徒の保護者の方も、国語ってわかりづらいですよね、答えがひとつじゃないから、と同じようなことを口にされる場合が多いです。しかし、大切なのはひとつの答えを求めることではなく、学ぶことや考えることを楽しむこと、以前できなかったことができるようになる喜びを感じることだと思います。きれい事のようにことだと思います。きれい事のようにそのような学習姿勢が身についている生徒には粘り強さがあり、成績も優秀です

お子さんと接している時間を長く とるのが難しいご時世だからこそ、お 子さんに接する際には、結果だけで 判断するのではなく過程の部分を認 めてあげることを心掛け、お子さんが 自己肯定感を得られるように導ける と、結果として高い学力の養成につ ながると思います。

大澤: 保護者の関わり方について、これから中学受験を始めるご家庭にお願いしたいことは、お子さんにとって一生に一回の中学入試を家族総出で楽しんでほしいということです。もちろん、思うようにいかずつらい時や、苦しい時もあると思いますが、我々がしっかりサポートして目標に

向かって寄り添っていきます。

同時に国語という教科についても 我々の授業を楽しんでほしいです。 授業を通じてひとつでも多くのこと を考える、身につける、表現する、そ ういうことをいつも提供していきます。 兵頭:保護者の関わり方としておす すめできるのは、お子さんにいろいろ 尋ねてみるという方法です。塾から 帰ってきたら「どんなお話だった?」 「この問題はどんなふうに解くの? | と聞いてみる。あるいは、国語の問題 がわからないという場合には、どんな 文章で何を問われているのかを聞い てみる。押し付けたり、○か×かで評 価したりするのではなく、純粋な疑 問、知りたいという気持ちでいろいろ 聞くというのが保護者のスタンスと してすごく大事なのではないかと思 います。

「これって普通こうでしょ。なんでわかんないの?」というような言い方をしても、「いや、わからないから間違ったんだよ」ということにしかならないばかりか、お子さんの感性や可能性を潰すことになりかねません。これは一番気をつけるべきことです。我々も肝に銘じていることですが、保護者の方々にも聞いて引き出すという姿勢は持っていただけるとうれしいですね。

山下:同じ主題をいろいろな角度から話してきましたが、そもそも保護者の関わり方で、子どもはこうすると必ずこうなるという方法論は存在しないと思っています。その上でふたつの点について触れたいと思います。

まず、国語が苦手な生徒がはたし ていつ成績が伸びるのかという話で す。これは正直に言うとわかりませ ん。5年生の時に伸びる生徒もいれ ば6年生の11月ぐらいに急に変わる 生徒や、厳しい状況だなあと思って いた生徒が入試の1か月前に変わっ たという場合もあります。成長曲線は 本当にバラバラです。いつどこで何 がくるかわからない。それならば、嫌 いにさせて潰すということだけはし ないほうがいいです。いつか伸びる かもしれないので、待ち続けなけれ ばいけないのですね。いつ成長する かは僕らでもわからない。わからない 以上は待つしかないので、その前で 芽を摘むことはやめましょう。嫌いに させないことが最も大切だと思いま

2点目はご家庭で子どもと接する時に、「なんで」「ダメじゃない」とか「さっき言ったでしょ」「もう」というような表現ではなく、きちんとした言葉で伝わるように、すなわち文章として成立するようにお子さんに語りか

けてほしいと思います。そうするとお 子さんも人に伝えるためには、こうい うふうに言わねばならない、そして書 かねばならないということを自然に 学んでいきます。子どもが家庭で学 習するのは、実はこういった言葉の質 の部分です。問題をやりこんだり、テ クニック的なものを磨いたりする以 上に保護者の方にしかできない膨大 な領域というものが本当はあるよう に思います。

高橋:保護者のお子さんに与える影響について少し強調する内容になってしまっていますが、子育でに正解を求めようとすると、かえってお子さんをゆがめることになるような気がします。大人にもわからないことがたくさんあるのだから、子どもと一緒に成長すればいい、という気持ちでお子さんに接したほうが、お子さんの自立や積極性を促せるのではないかと思う部分もあります。

この対談を最後まで読んでいただいた保護者の方には、読んだことをヒントにして、もう少しリラックスして、お子さんと一緒に受験勉強を楽しむ意識を持っていただけると、お子さんも伸び伸びと過ごせるようになり、持っているものをもっと伸ばすことができるのではないかと考えています。



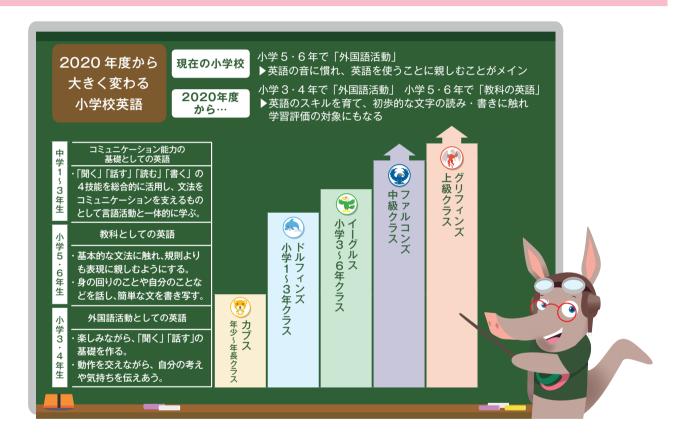
英会話グノキッズから

Gno-let

英会話グノキッズ

上級クラス [G(グリフィンズ) クラス] 設立

グノキッズが6年目を迎え、グノキッズ生が着実に育ってきました。そして、いよいよ、 小学生の最上位クラスとなる、上級クラス「G(グリフィンズ)クラス」が来年度からスタート します。今回は、このGクラスについてのご説明と各種イベントをご紹介いたします。



イメージアイコン

GクラスのGは「Griffin」。鷲の翼と上半身、ライオンの下半身を持つ伝説上の生物です。最強の鳥類である鷲と最強の獣であるライオンの組み合わせは、まさにグノキッズの最上位クラスにふさわし

いキャラクターです。このキャラクターに負けない力を グリフィンズクラスではつけていきます。

Gクラスの目標

生徒はD(ドルフィンズ)クラスから、E(イーグルス)クラスの3年間を通して基本的な文法やいろいろなフレーズ、中級クラスF(ファルコンズ)クラスの2年間で英検®3級レベルの文法を取り扱い、英会話を学びながら、中学レベルの英文法にも取り組んできました。そしてGクラスでは、Fクラスまでに学んだ文法が扱われている長文を読みこなしながら、ボキャブラリーのインプットをより増やすことで、さらに難易度の高い読解問題(英検®準2級や2級レベル)にも自然と対応でき

英会話 グノキッズ

る力を身につけていきます。また、海外の小学生向け動画を視聴して彼らと同じように内容を把握し、楽しんだり、考えたりできるようにします。そして、レッスンごとのテーマに応じたディスカッションでは、自ら考えたことをアウトプットできる力の養成や英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をさらに伸ばし、Fクラスまでに学んできたことをより実践的に使えるようになることを目標にしています。

生きた英語を題材にしたレッスン内容

海外の小学生向けに制作された現地のニュース記事や動画を教材にレッスンを進めていきます。今まで学習してきた知識(単語や文法など)+αで読むことができる記事を選定し、生きた英文を読解していきます。生徒の皆さんに知ってもらいたい一般的なテーマに限らず、海外の小学生が興味関心を持っているテーマ、時には時事ニュースも取り上げるので、レッスンを通じて今世界で関心を集めているトピックスを知ることもできます。

そして、Gクラスではこれまでのクラスよりアウトブットに集中できる時間を多く作っています。テーマに応じたディスカッションを行っていきますが、もちろん、すぐにできるようになるのは難しいので、まず生徒は先生から投げかけられる質問に答えることで自分の意見を持つようになり、先生はディスカッションが自然とできるように促していきます。中学校で行われるであろう授業を小学生のうちに先取り受講でき、このアドバンテージはその先の学習にも影響があると思います。

上級クラスに進級するために

Fクラスに進級する際にも一定の基準を設けていますが、Gクラスではよりその基準が厳格になります。Fクラスまでは90分レッスンでしたが、Gクラスはその半分の45分となり、アウトプットに時間をさく代わりに簡単な文法の説明やボキャブラリーのゲームに多くの時間を使いません。この45分という時間を最大限に活かせるようなレッスンプランを組み立てるためには、一定レベルの力が必要になります。その基準は、英検®3級取得もしくはそれと同等の力があると判断される生徒です。これは、Fクラスを2年間しっかり受講していれば問題なくクリアできるレベルですが、まだそのレベルまで達していないということであれば、Fクラスを受講いただくことになります。

Gクラスに進級しても、宿題にしっかり取り組まなければレッスンへの参加は難しくなります。宿題の量は

ワークシート1枚なので決してできない量の宿題は出しません。テーマ記事を読み、そこに出てくるボキャブラリーの確認、センテンス音読、ライティングの課題のみです。45分間を濃厚で充実したレッスンにするために、Gクラスの生徒には必ずやってきていただきたい課題と考えています。

Gクラスとは

英会話教室というと、習い事やお稽古といったイメー ジで、実際にグノキッズに通わせている保護者の皆さま もそういうイメージをお持ちではないでしょうか。スイ ミングやピアノといった習い事の中のひとつに英会話が あり、場合によっては他の習い事を優先することもある ように感じます。グノキッズはどちらかというと習い事 やお稽古ではなく塾のほうがイメージとしては近いです。 Fクラスまでに積み上げてきた英語力をより開花させる べくグノキッズの皆さんにはこのGクラスを目指して、 さらに英語、英会話に取り組んでいただきたいと考えて います。これからグノキッズにお子さまを诵わせようと 考えている保護者の皆さまはGクラスという高い目標が あることを念頭に置いていただき、継続して学ぶことの 大切さをお子さまのグノキッズでの成長を通じてぜひ実 感してください。グノキッズはお子さまの英語学習を全 カでサポートします。

いよいよ英語教育改革

2020年度、小学校3・4年生で外国語活動の授業がスタートし、5・6年生では英語が「教科」となり、成績がつくようになります。授業では検定教科書が使用され、現行の中学1年生が取り扱う文法(動詞の過去形、代名詞、疑問詞、動名詞、助動詞など)を使った基本的な表現を学びます。外国語活動では「聞く」「話す(やり取り)」「話す(発表)」の3領域を学び、外国語科では3領域に「読む」「書く」が加わった5領域を学びます。そして、2021年度、中学校ではオールイングリッシュ授業がスタートします。グノキッズのカリキュラムであれば、外国語活動のレベルは年少から年長クラスでスター

トしており、小学 校低学年の間に外 国語科の分野に到 達しています。小 学校高学年では英 語に苦手意識を持 つことなく、その



後スムーズに中学校の英語学習へ移行します。中学校で の英語の授業は、小学生のうちにどれだけ多くの単語に 触れ、外国人とのコミュニケーションを多くとったかと いうことが大きく影響していくものと思います。中学校 への進学の際には、グノキッズのファルコンズ、グリ フィンズクラスでの経験は間違いなく、他の生徒よりも 一歩も二歩も先に出るものと考えています。

グノキッズのイベント

グノキッズでは、通常レッスン以外にもいろいろな レッスンを企画し、また地域のイベントにも参加してい ます。サマースクールのようなイベントとして行うレッ スンもあれば、地域の方たちにグノキッズを知ってもら うべく行う地域イベントもあります。このようなグノ キッズのイベントをご紹介いたします。

グノキッズの季節イベント



グノキッズでは、季節に応じたイベントを開催してい ます。例えば、春は公園で開催するパークイベントや動 物園、水族館でのイベントも行います。教室ではできな い公園ならではの、より体を動かすアクティビティや、 動物園や水族館では本物の動物や海の生物を見ながら、 英語でクイズをします。その場で生き物について学習し ながら進んでいくレッスンは、いつもとは違うレッスン で子どもたちの好奇心をくすぐります。夏はサマース クール、秋にはハロウィンパーティといった毎年恒例の イベントもあります。特にサマースクールでは、夏休み で英語から離れてしまう期間が長くなってしまうので、 英語に触れる時間を確保しながら、さらに通常よりも長 い時間のレッスンを行うため、より英語力を伸ばすため にもおすすめしています。小学生には、学校の自由研究 をサマースクールで終わらせることができるようなプラ ンも用意しています。このようなグノキッズイベントは、 イベントと言いな がらもしっかりと したレッスンプラ ンをもとに実施さ れています。ただ 先生たちと遊ぼう という企画ではな く、レッスンとい う側面も持ってい ますので、イベン トへの参加は非常 に有意義なことで



す。今まで参加していなかったという方はぜひご検討い ただければと思います。

今年度はこれらのイベントに加えて、年少から年長向 けのウィンタースクールを開催します。冬休みを英語に 触れない期間にしてしまうのは非常にもったいないので、 サマースクールと同じようにたっぷり3時間のレッスン で楽しく学べるようなプランを作成しています。また、 グノキッズでは、英検®取得も推奨しています。小学生 は1月26日(日)に行われる英検®に向けて5級~3級 の文法や読解がどのくらいできるか、本試験の受験にか かわらず、英検®模試をご受講いただければと思います。 グノキッズのレギュラーレッスンを受けながら、着実に 力がついていることを実感していただける機会だと思い

さらに、グノキッズは外部のイベントにも参加してい ます。例えば、グノキッズ経堂校では春と秋に経堂すず らん通り商店街で毎年恒例になっているお祭りに参加し ます。フェイスペインティングやボールトス(欲しい景 品の的に向かってボールを投げる) や輪投げをやってい て、先生たちはそれぞれのゲームで英会話をしながら進 めているのでとても楽しめます。地域の方たちと交流し ながら、まだグノキッズのことを知らない方にも良い機 会ですので、ぜひお近くにお住まいの方がいらっしゃい





ましたら、遊びに きていただければ と思います。グノ キッズ白金高輪校 では、6月末頃に 「天の川蛍祭」と いうイベントに参

加しています。ここでも、経堂校と同じような内容でイ ベント会場のブースを借りて行っています。このイベン トは経堂とは違い、ステージショーの時間があります。 グノキッズの先生2人がステージに立ち、歌や絵本の読 み聞かせといったグノキッズらしいショーを多くの観客 の前で披露します! 暑い中子どもたちは元気いっぱい に踊ったり、歌ったりしてくれて、先生も汗だくになり ながら思いっきり楽しんでいます♪

たまプラーザ校1周年記念イベント

たまプラーザ校が1周年を迎えました!10月26日 (十) にハロウィンレッスンやゲームイベントへの無料 ご招待を1周年記念イベントとして開催しました。グノ キッズ恒例のフェイスペインティングやボールトス、バ ルーンアートやフォトコーナーを用意しました。ハロウィ ンレッスンで楽しんだあと、それぞれのゲームで遊び、 フォトコーナーで素敵な写真を撮りました。仮装した子 どもたちがハロウィンの飾りをバックに写真を撮り、そ の場で写真をお渡ししました。その写真にある QR コー



ドからデータのダウンロードもできるというサービス を行い、フォトコーナーはグノキッズでも初めての試み でしたが、なかなかの写真の出来栄えに皆さんに喜んで いただきました。1周年記念イベント、ハロウィンレッ スンには多くの方にご参加いただき、大変盛り上がった イベントになりました♪

ありがとうございました!

皆さんもぜひグノキッズ のイベントにお越しいた だき、たくさん"先生に" "英語に"触れて、"外国" を感じてください!





白金高輪校

自由が丘駅南口から徒歩約2分 成城学園前駅南口から徒歩約2分 白金高輪駅2番出口から徒歩約5分 03-6715-6684 03-6805-8842 03-6435-0662 東京都港区三田 4-8-36 東京都世田谷区奥沢 5-29-7 東京都世田谷区成城 2-26-15 自由が丘 CR ビル 2F 成城 CRII ビル 1 F 三田MTビル 4F

成城学園校

自由が丘校

馬喰横山駅A3出口・ 東日本橋駅B1出口から徒歩約4分 03-6661-1917 東京都中央区日本橋久松町 6-9

AS ONE 日本橋 East 1F

日本橋校

経堂校 経堂駅北口から徒歩約3分

03-6413-0411 東京都世田谷区経堂 2-5-15

プリンセスガーデンズ 1F

たまプラーザ校 たまプラーザ駅南口から

徒歩約3分

045-530-9863 神奈川県横浜市青葉区新石川3-4-1 たまプラーザ CR ビル 1F

グノーブルの先生は「近い」

私たちはすぐに皆さん全員の名前を覚えます。

授業中には、黒板や教材ではなく、皆さんと向き合っています。 教材の用意も、授業の準備も、皆さんの顔を念頭に置きながら。 個別添削も毎回行い、一人ひとりの成長を応援していきます。 皆さんと互いに敬意を持てる関係、明るく活気ある環境を堅持します。

グノーブルで、頭をフルに使う楽しさを実感してください!

大学受験



Gnoble

大学受験 グノーブル



Gnoble



GnoLink

個別指導 グノリンク

難関大学・医学部を目指す中1生~大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。 その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、 前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学 ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の 接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環 境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんを しっかりサポートしていきます。

中学受験

応えしていきます。

中学受験 グノーブル

難関中学を目指す小学生

最新の入試傾向に対応したカリキュラム、精選さ れたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師 陣が一人ひとりに向き合った双方向の授業を展開 し、難関中を目指す子どもたちを導いていきます。 学習したい教科や志望校別のクラスが選択でき

るなど、中学受験に関するさまざまなご要望にお

難関校を目指す小学生~大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性 を追求します。学習状況に合わせて、講師1名に 生徒2名、あるいは生徒1名の完全個人指導体制 を提供します。中学受験・大学受験グノーブルと 並行して通うことも可能です。グノーブルオリジナ ルテキスト等も併用しながら、個別に対応します。

英会話



GnoKids

英会話 グノキッズ

さまざまな楽しい英語体験を通して、聞く、話す、 読む、書くの4つの力を伸ばします。先生2名に生 徒は8名程のクラスで、ネイティブの英語に触れ、 親しむことができます。ご家庭での学習も配慮し た教材で、継続的な学習を無理なく行うことがで きます。

Gnoble グループ 各校舎所在地 巣鴨 吉祥寺 お茶の水 四谷 西船橋 経堂 成城学園 ●東京(東日本橋) 白金高輪 たまプラーザ 白由が丘 ... 武蔵小杉



Gnoble

大学受験 グノーブル 中学受験 グノーブル 個別指導 グノリンク 英 会 話 グノキッズ グノーブル総合案内 www.gnoble.com

GROUP

発行: 富士教育出版 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-10-2 監修:グノレット編集部 表紙イラスト:斉藤高志